日南市立地適正化計画
策定委員会

第2回資料

1. 第1回策定委員会意見への回答と対応
2. アンケート比較 結果概要
3. 都市構造分析（市全体）
4. 都市構造分析（都市計画区域）
5. 災害リスク分析
6. 課題整理
7. まちづくり方針

１．第１回策定委員会意見への回答と対応

第1回策定委員会意見への回答と対応

意見	回答と対応
・対象範囲に北郷・鵜戸地区等が入っていない。 ・北郷町は大きな施設もあるので、何らかの対応が必要。	・まちづくりとしては日南市全体で検討する。その中で、都市計画マスタープランと整合を図りながら、法制度に基づいて、日南、南郷両都市計画区域の検討を行う。
・地域公共交通計画との整合性をどう考えていくのか。	・来年度、再来年度で検討の予定であり、本計画とも整合を図っていく。
・市全体と都市計画区域のデータが混在している。地域の方針を見据えたうえでのストーリーを描いてほしい。	・データを整理する。 →今回資料で、市全域、都市計画区域に分けて分析。
・高校生等の若い世代の意見が今からでも聞けるのであれば行ってほしい。	・若者へのアンケートは検討する。 →今回資料で、結果を報告。
・医療施設は診療科によって、ニーズが変わる。産婦人科・皮膚科等がない状態。	・市民の不安が大きいのは地域医療に関すること。市の施策として、現状は診療所に補助金を与えることなどを行っている。
・日南市で完結できればよいが、都市機能を誘導するところで、特定の医療の誘致も検討してほしい。	・誘導施設の検討の際の参考とする。

2. アンケート比較 結果概要

アンケートの実施概要

●目的：住民のまちづくりに対する意見や意向を把握・分析し、立地適正化計画策定の参考とするため

●発送：市民　3,000世帯、10月18日までに投函を依頼
高校生　日南市内の3校、回答期限：1月31日

●比較項目
①公共交通・公共施設の利用（利用頻度、利用判断、交通手段、サービス水準、徒歩移動、必要な取組、充実すべき施設）
②防災意識（災害情報入手方法、災害関連イベントの参加、居住意向、災害発生時の備え）
③将来について（住まいを決める条件）

●有効回収数：市民　825通（10月25日までの到着分）
高校生　715通中637通

アンケートの調査結果

①公共交通

・鉄道の利用について日南市民、市内高校生ともに全く利用しない割合が最も高く、中でも日南市民は73%を占めていた。利用する割合の中では、日南市民は6ヵ月～1年間に1回程度の割合が18%と最も高く、市内高校生は1週間に1回以上の割合が23%と最も高かった。

・公共交通について日南市民は、運賃や移動時間よりも乗降場所までの距離が短いことを求めている割合が44%と最も高く、一方で市内高校生は移動に時間を要してもよいので、運賃が安価であることを求めている割合が68%と最も高かった。

・公共交通機関に必要な取組として日南市民は鉄道・バス・乗合タクシー等が乗り継ぎしやすいようにする、便数を増やすなど、運行ダイヤを見直すと回答した方が多かった。一方で市内高校生は運賃を安くする、便数を増やすなど、運行ダイヤを見直すと回答した方が多かった。

②施設

・充実すべき施設について日南市民は病院や診療所などの医療機関と回答した方が最も多い一方で、市内高校生は大型ショッピングセンターやデパートと回答した方が最も多かった。

アンケートの調査結果

③防災意識

・自然災害を踏まえ住み続けたいかについて日南市民、市内高校生ともに歩いて行ける範囲に避難所があるなど、避難しやすい環境であれば、災害リスクを抱えていても今の場所に住み続けたい割合が最も高く、次いで日南市民はどのような災害リスクを抱えていても、今の場所に住み続けたい割合が25%を占めているのに対し、市内高校生は災害ハザードエリアに指定されていない安全な場所に住み続けたい割合が34%を占めていた。

・災害発生時に備えた対策について日南市民は懐中電灯や非常用食料などの備蓄品を準備していると回答した方が最も多い一方で、市内高校生はハザードマップで浸水箇所などを確認していると回答した方が多かった。

④将来について

・お住まいを決める条件について日南市民は公共施設、医療施設、商業施設などの都市機能が充実している、災害に遭うリスクが少なく安全であると回答した方が多い一方で市内高校生は駅やバス停などが近く、公共交通が利用しやすい、職場や通学先に近いと回答した方が多かった。

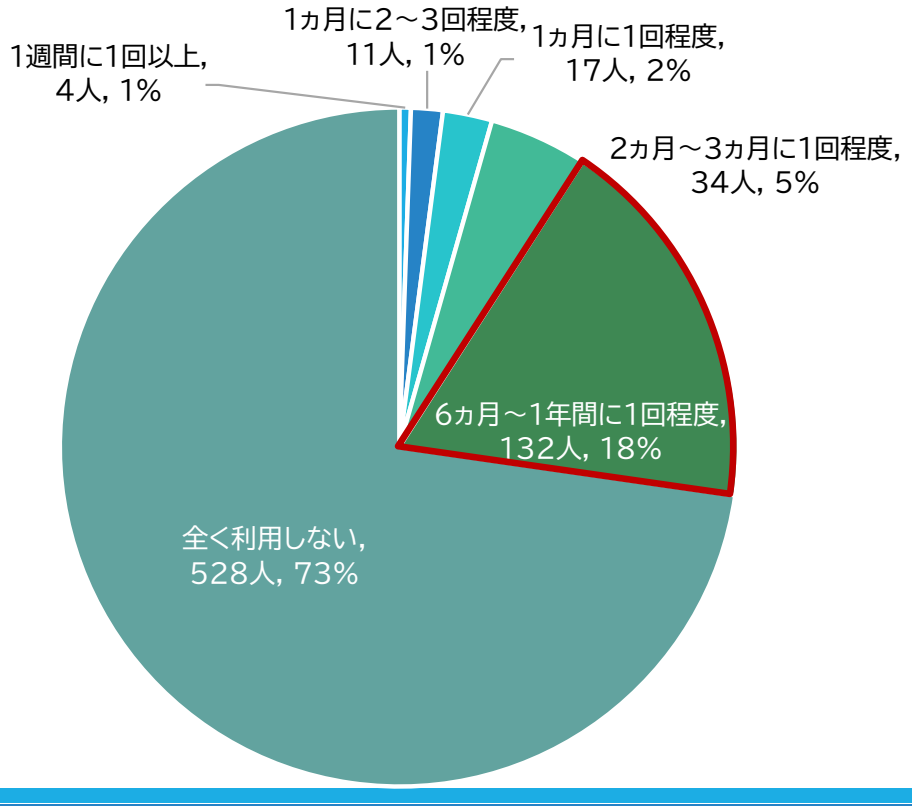
日南市民（左図）と市内高校生（右図） 比較

①公共交通・公共施設

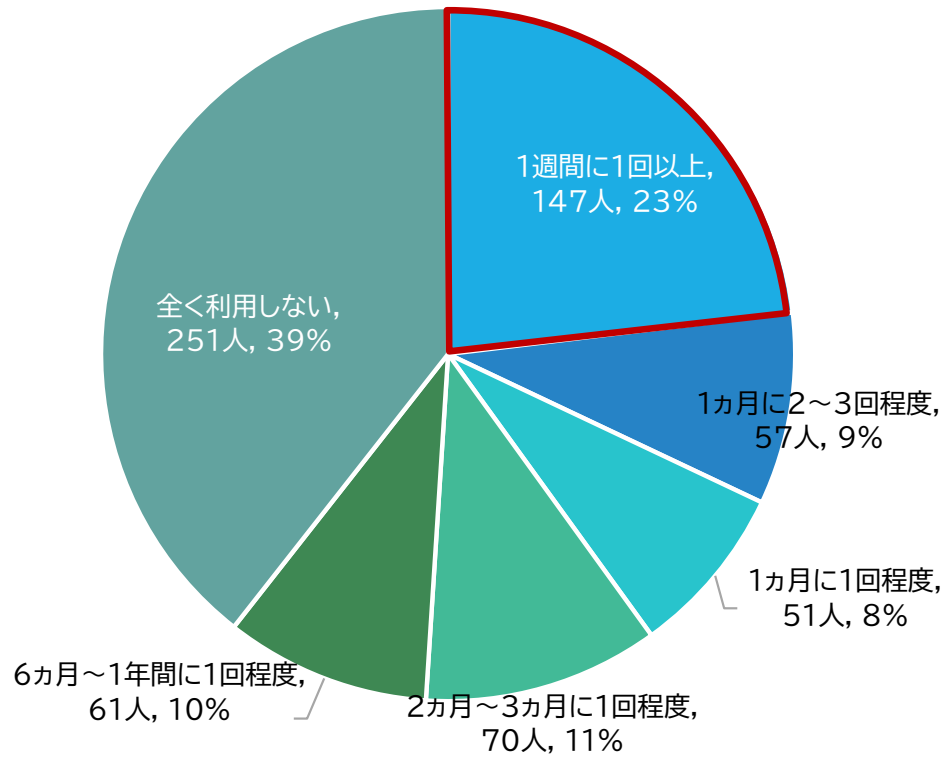
問5-1. 鉄道の利用

鉄道の利用について日南市民、市内高校生ともに全く利用しない割合が最も高く、中でも日南市民は73%を占めていた。利用する割合の中では、日南市民は6ヵ月～1年間に1回程度の割合が18%と最も高く、市内高校生は1週間に1回以上の割合が23%と最も高かった。

【日南市民】N=726



【市内高校生】N=637



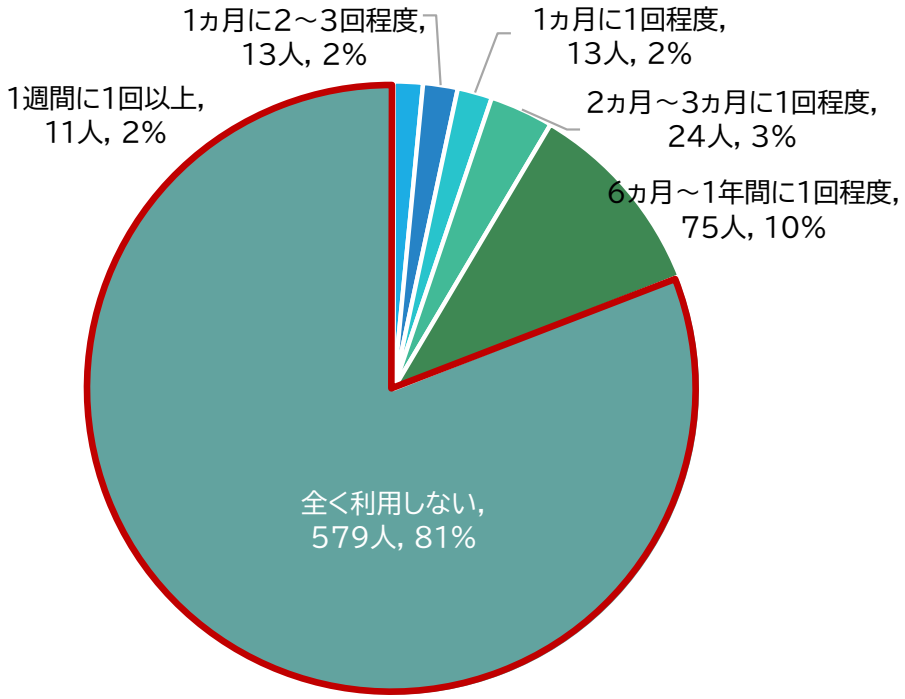
日南市民（左図）と市内高校生（右図） 比較

①公共交通・公共施設

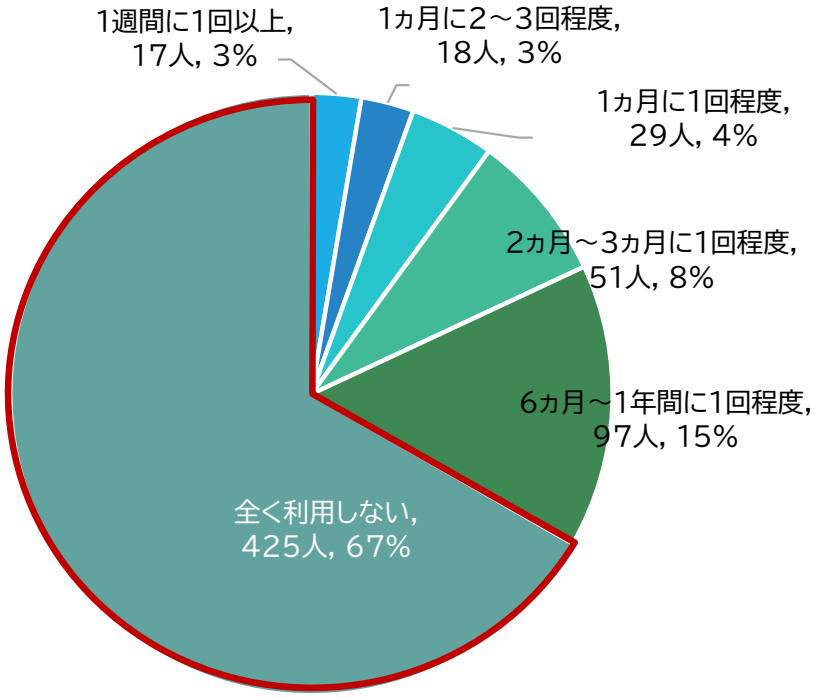
問5-2. 路線バス（宮崎交通(株)運営）の利用

路線バスの利用について日南市民、市内高校生ともに全く利用しない割合が最も高く、日南市民は81%、市内高校生は67%を占めていた。利用する割合の中では、日南市民、市内高校生ともに6ヵ月～1年間に1回程度の割合が高く日南市民が10%、市内高校生が15%を占めていた。

【日南市民】N=715



【市内高校生】N=637



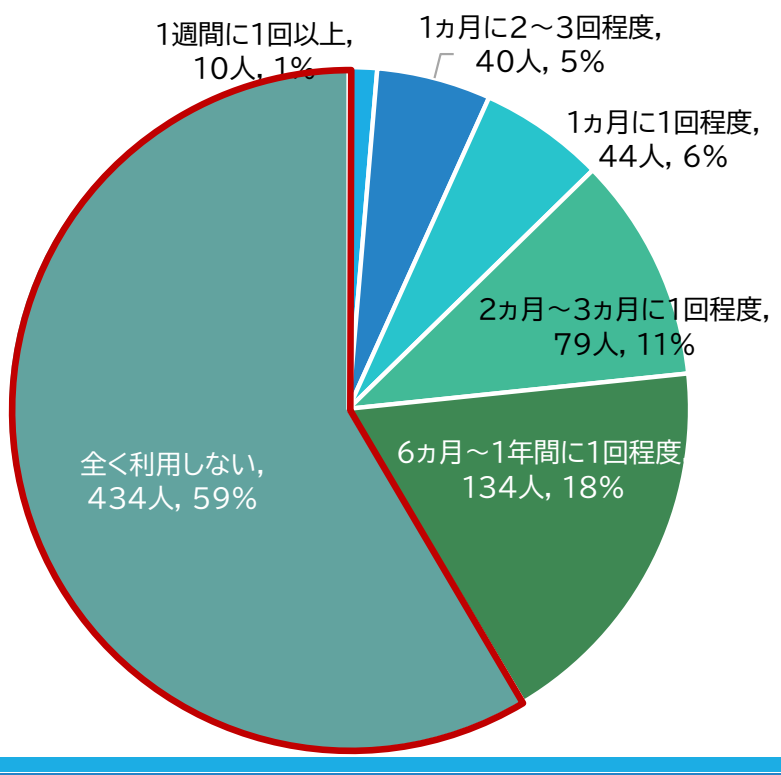
日南市民（左図）と市内高校生（右図） 比較

①公共交通・公共施設

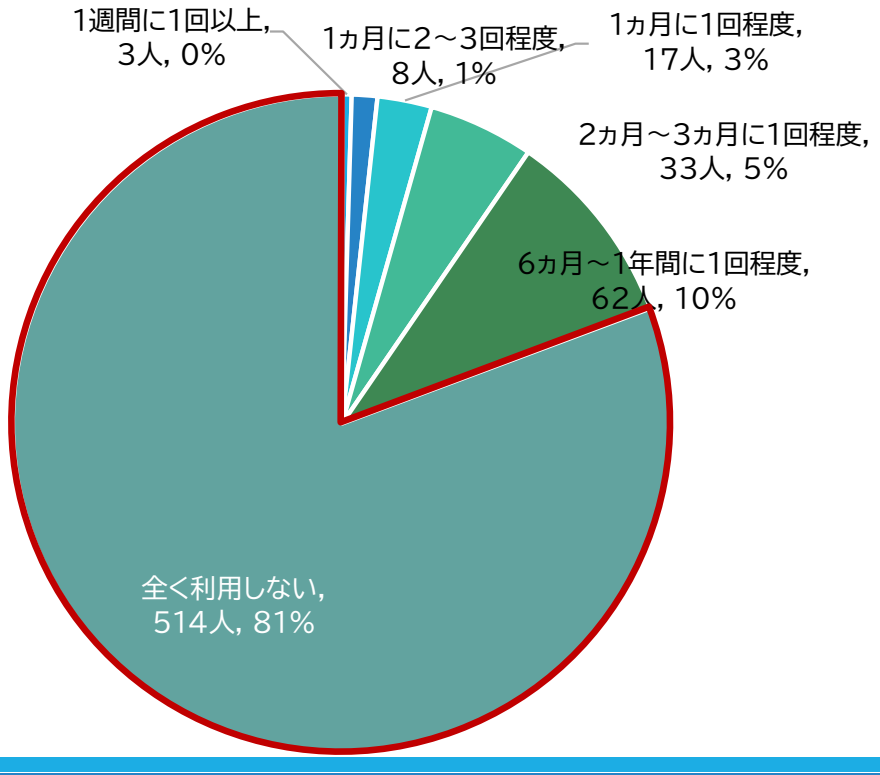
問5-3. タクシーの利用

タクシーの利用について日南市民、市内高校生ともに全く利用しない割合が最も高く、日南市民は59%、市内高校生は81%を占めていた。利用する割合の中では、日南市民、市内高校生ともに6ヵ月～1年間に1回程度の割合が高く日南市民が18%、市内高校生が10%を占めていた。

【日南市民】N=741



【市内高校生】N=637



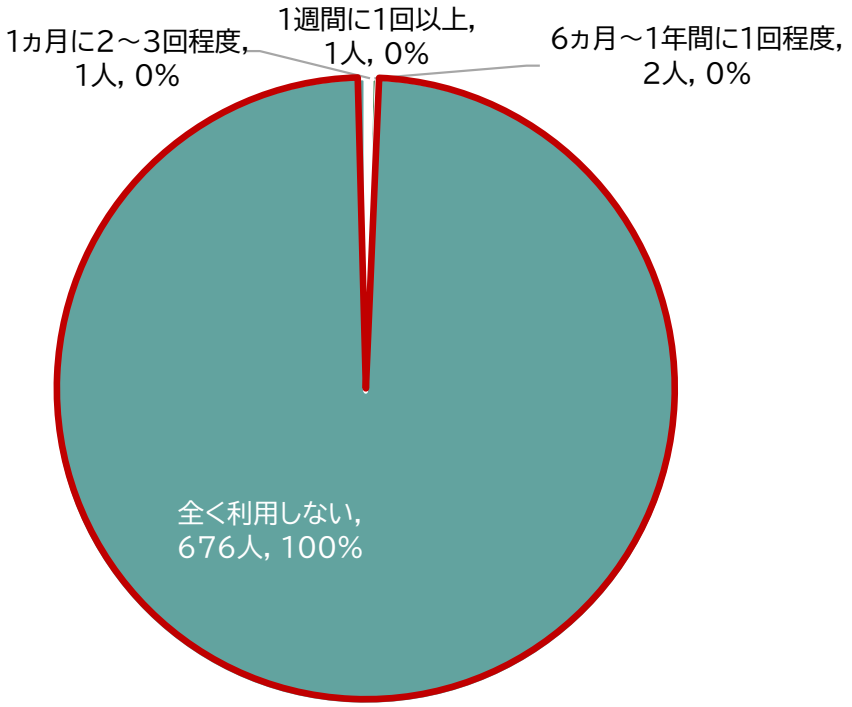
日南市民（左図）と市内高校生（右図） 比較

①公共交通・公共施設

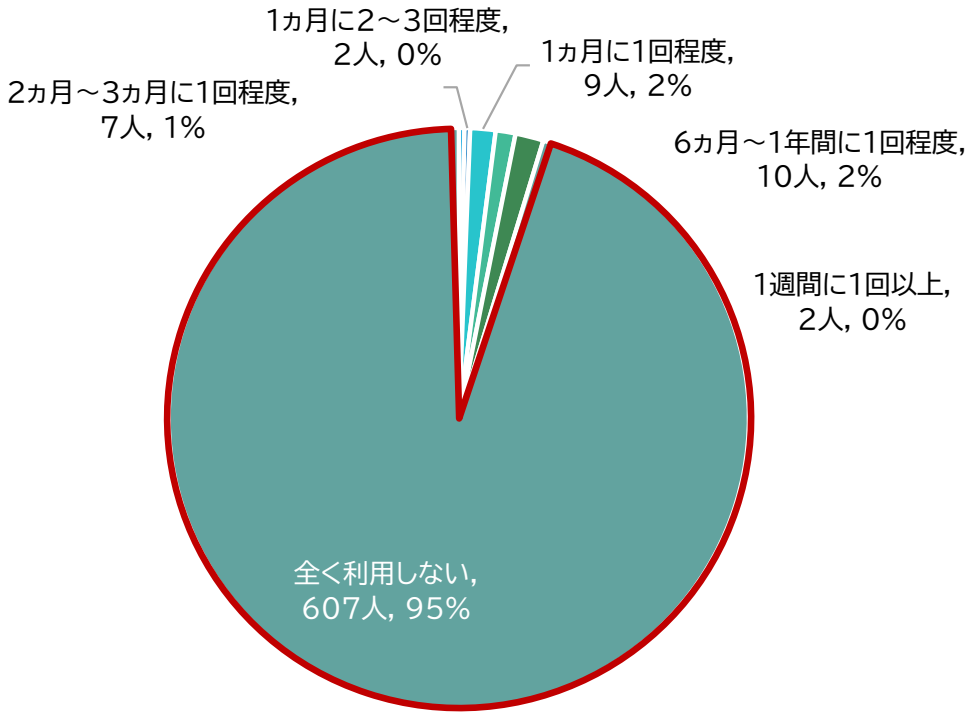
問5-4. デマンド型乗合タクシーの利用

デマンド型乗合タクシーについて日南市民、市内高校生ともに全く利用しない割合が最も高く、日南市民は100%、市内高校生は95%を占めていた。

【日南市民】N=680



【市内高校生】N=637



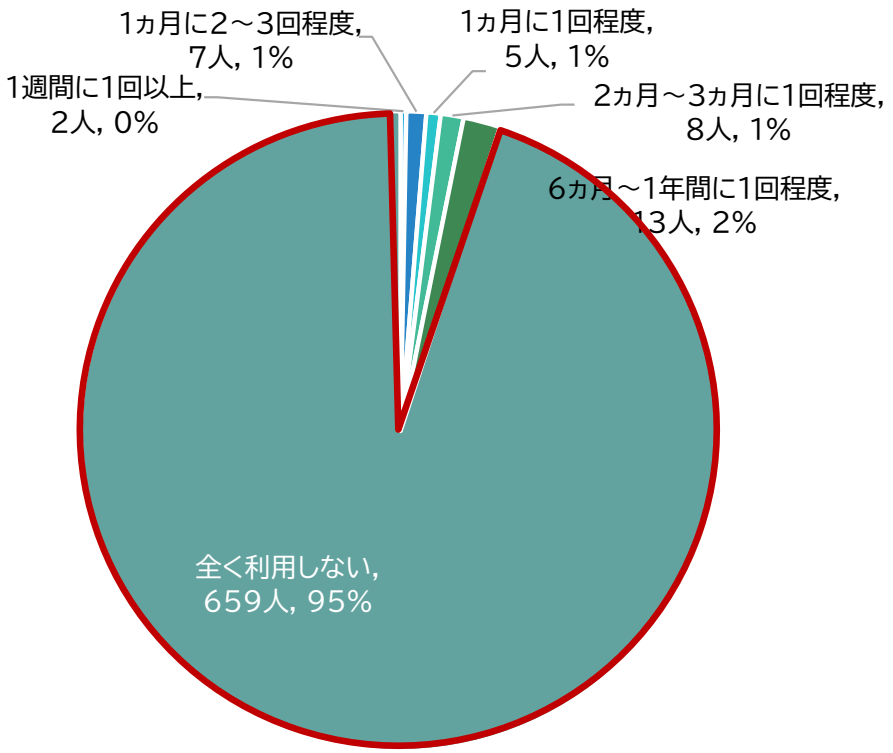
日南市民（左図）と市内高校生（右図） 比較

①公共交通・公共施設

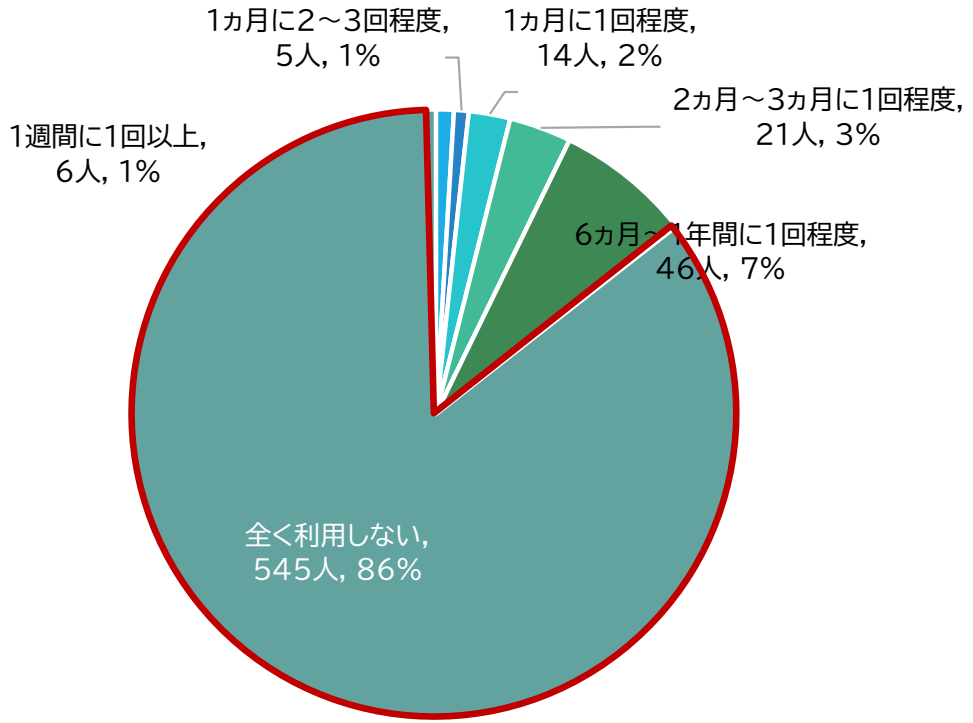
問5-5. コミュニティバスの利用

コミュニティバスの利用について日南市民、市内高校生ともに全く利用しない割合が最も高く、日南市民は95%、市内高校生は86%を占めていた。

【日南市民】N=694



【市内高校生】N=637



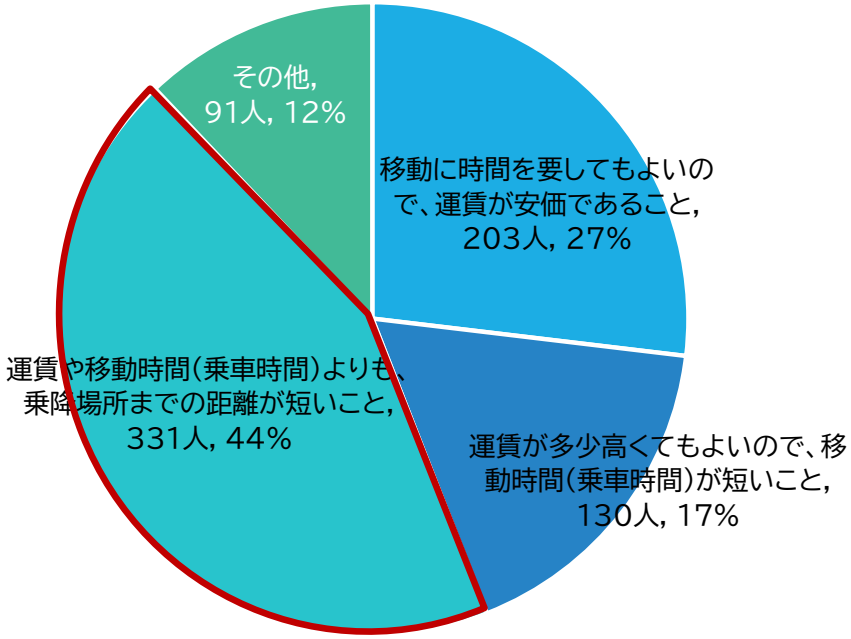
日南市民（左図）と市内高校生（右図） 比較

①公共交通・公共施設

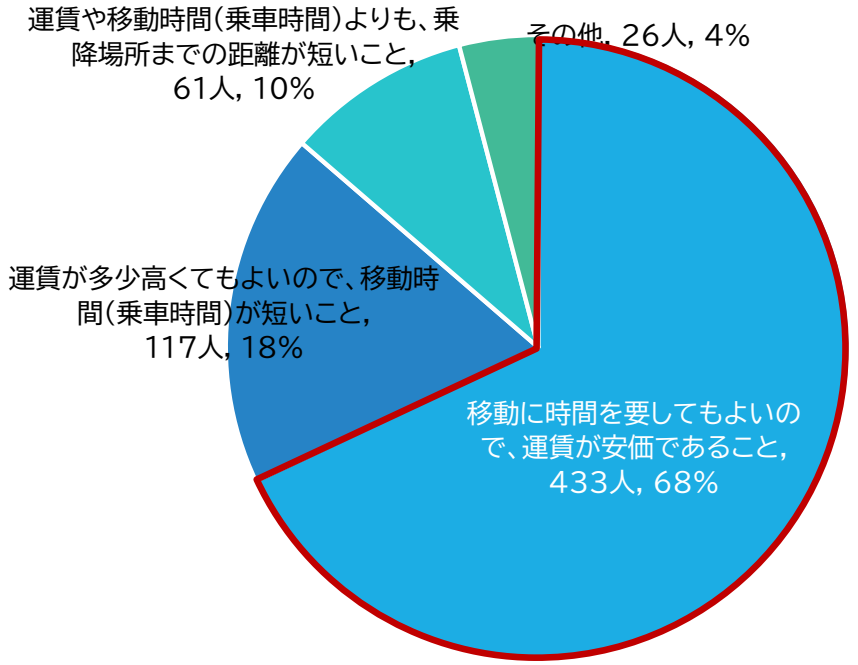
問6. 公共交通に関する考え

公共交通について日南市民は、運賃や移動時間よりも乗降場所までの距離が短いことを求めている割合が44%と最も高く、一方で市内高校生は移動に時間を要してもよいので、運賃が安価であることを求めている割合が68%と最も高かった。

【日南市民】N=755



【市内高校生】N=637



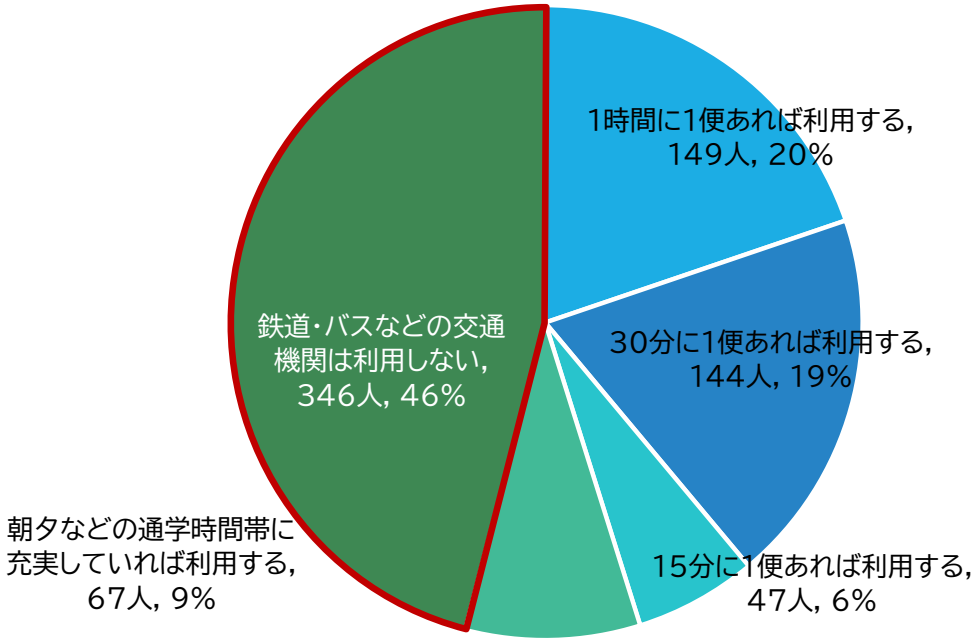
日南市民（左図）と市内高校生（右図） 比較

①公共交通・公共施設

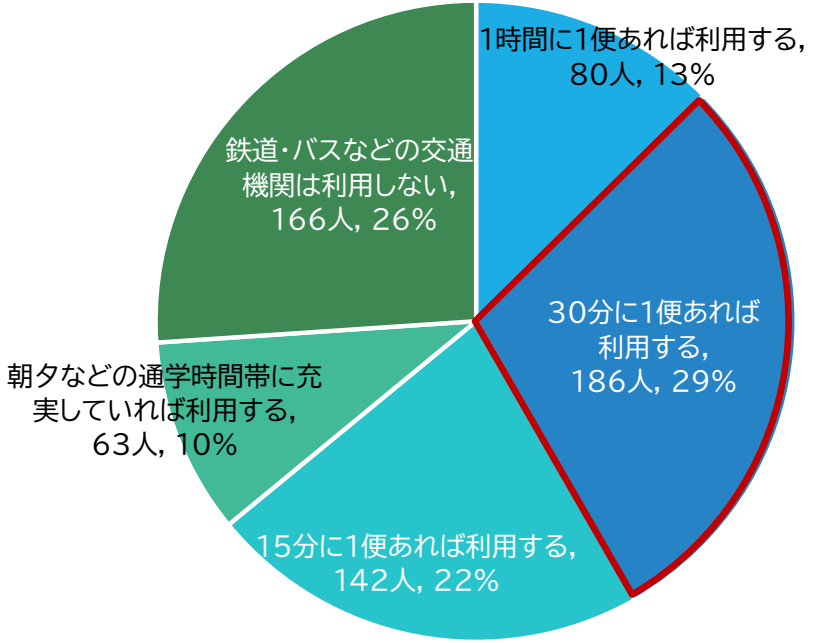
問7. 鉄道・バスなどの公共交通

公共交通について日南市民は鉄道・バスなどの交通機関は利用しない割合が最も高く、46%を占めている一方で、市内高校生は30分に1便あれば利用する割合が最も高く29%を占めていた。

【日南市民】N=753



【市内高校生】N=637



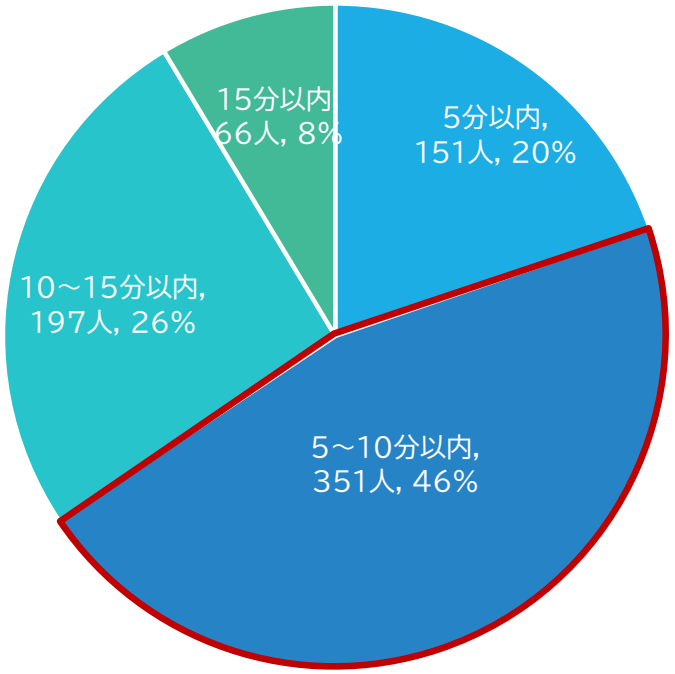
日南市民（左図）と市内高校生（右図） 比較

①公共交通・公共施設

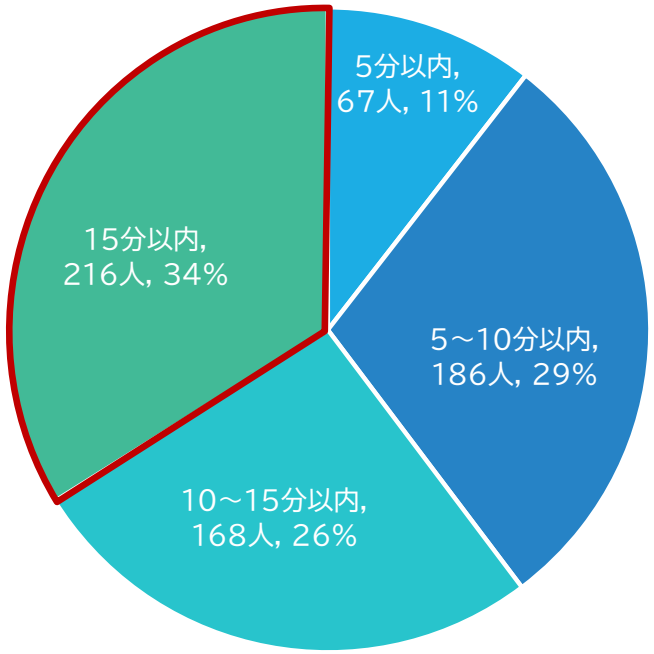
問8. 最大何分まで徒歩可能か

日南市民はは5～10分以内は徒歩可能である割合が46%と最も高い割合を占めている一方で、市内高校生は15分以内は徒歩可能である割合が34%と最も高かった。

【日南市民】N=765



【市内高校生】N=637



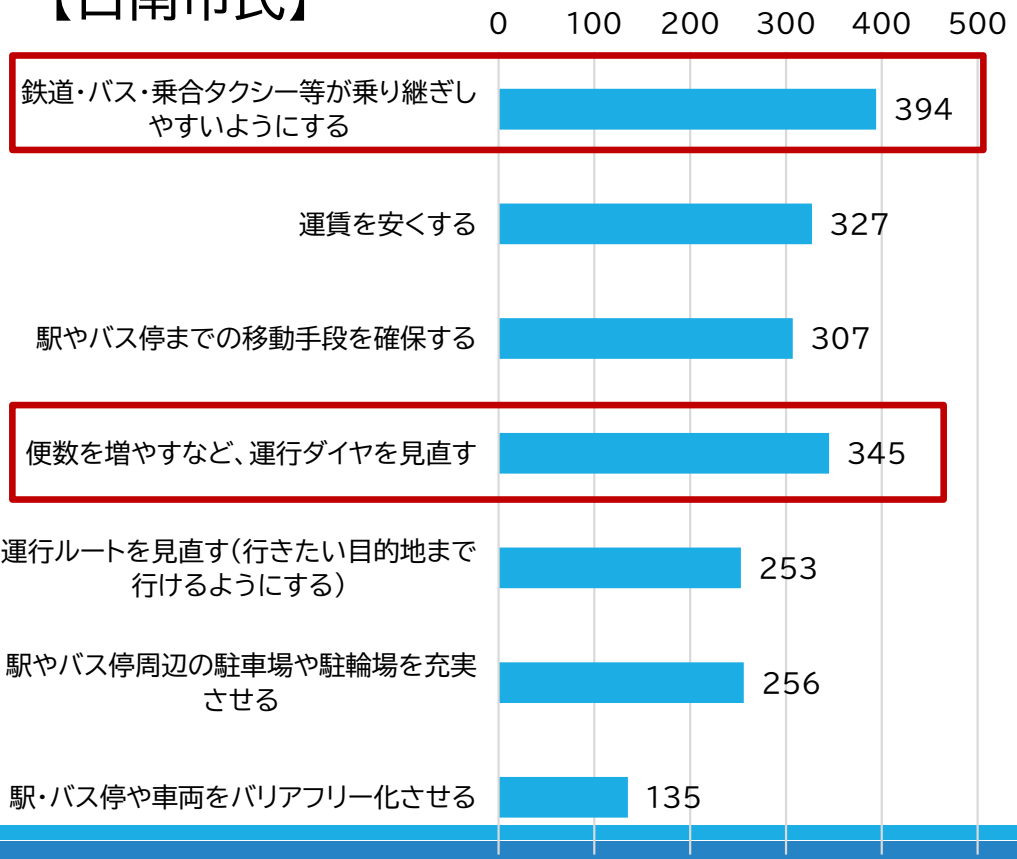
日南市民（左図）と市内高校生（右図） 比較

①公共交通・公共施設

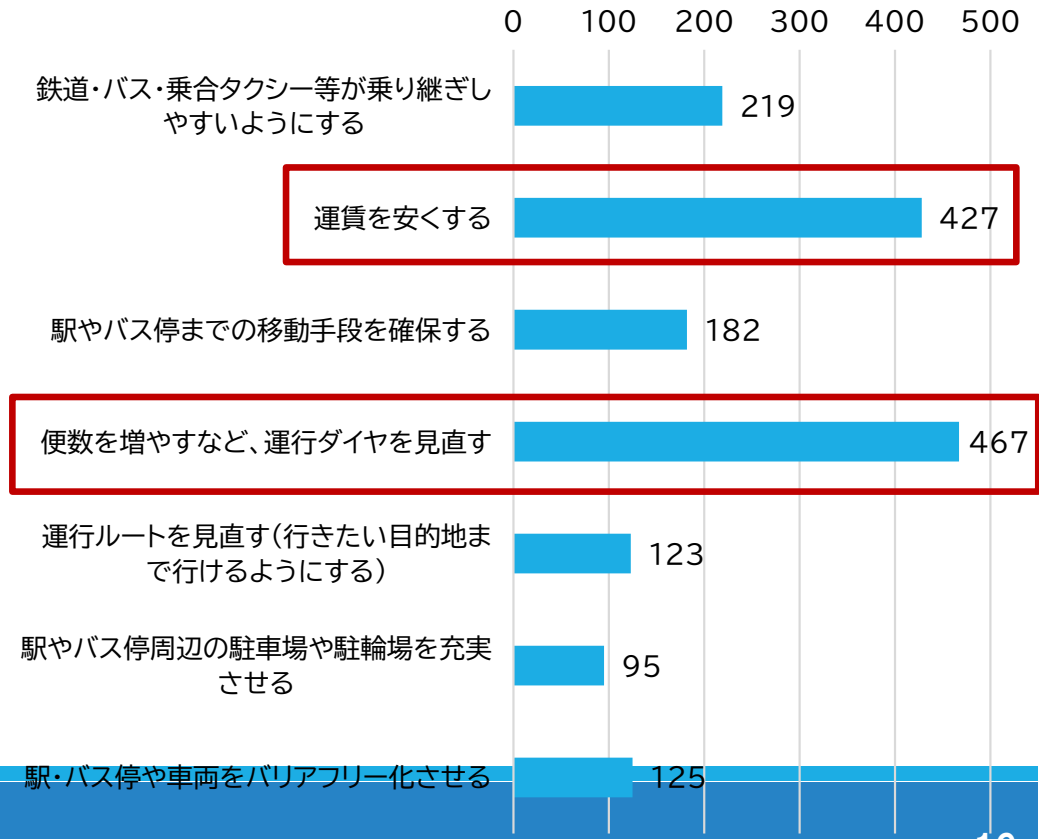
問9. 現在の公共交通機関に必要な取組（複数回答）

公共交通機関に必要な取組として日南市民は鉄道・バス・乗合タクシー等が乗り継ぎしやすいようにする、便数を増やすなど、運行ダイヤを見直すと回答した方が多かった。一方で市内高校生は運賃を安くする、便数を増やすなど、運行ダイヤを見直すと回答した方が多かった。

【日南市民】



【市内高校生】



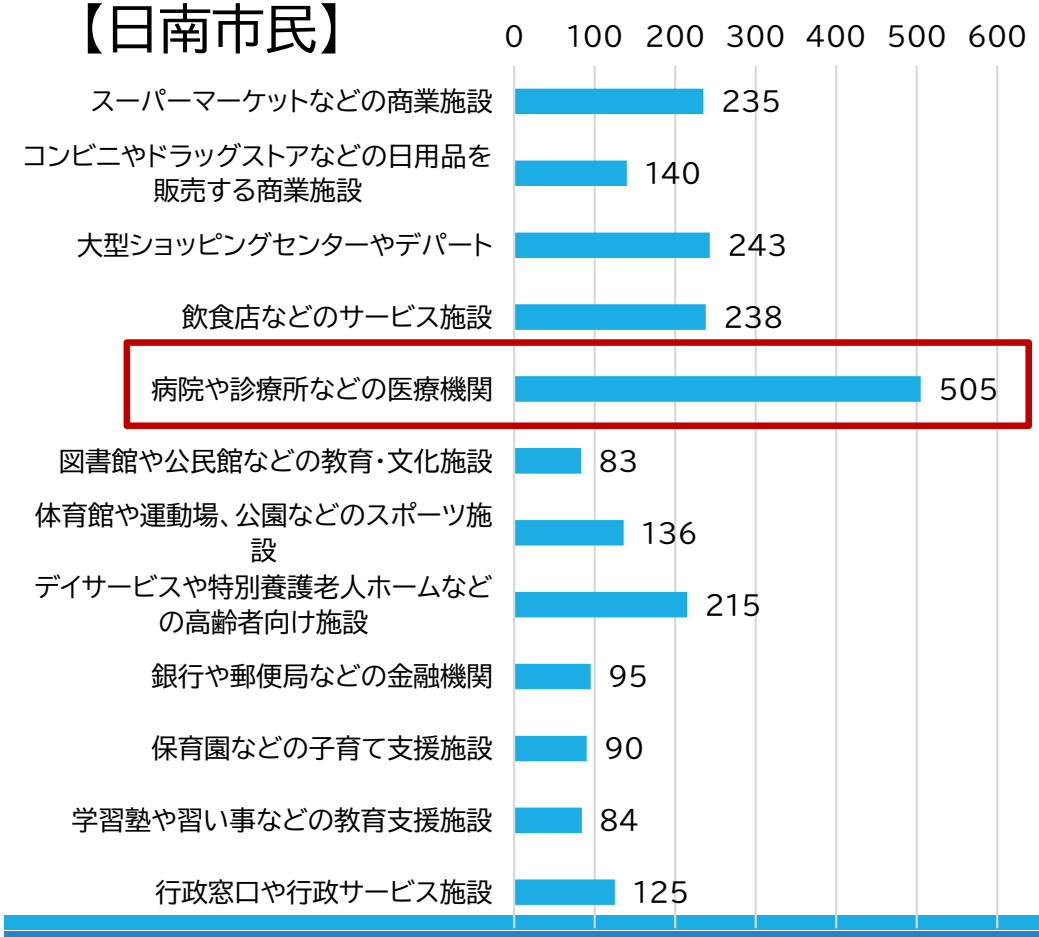
日南市民（左図）と市内高校生（右図） 比較

② 公共交通・公共施設

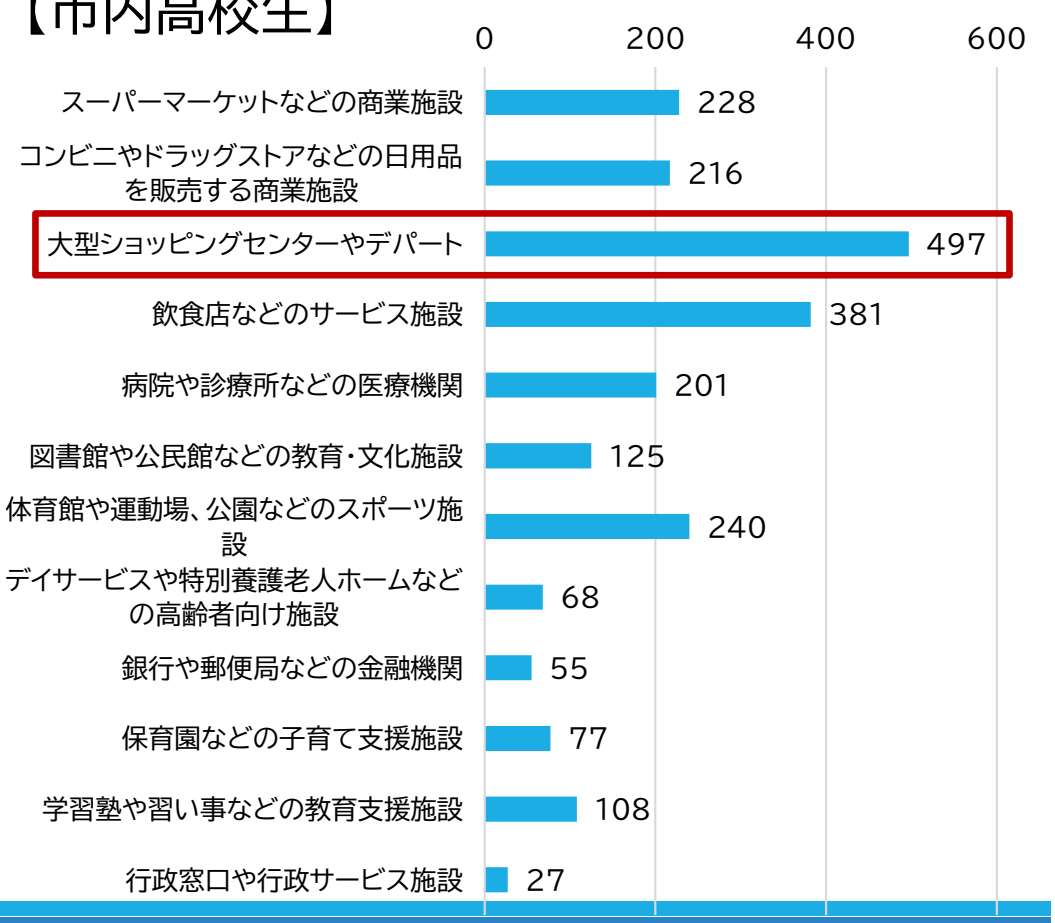
問10. 日南市に充実すべき施設(複数回答)

充実すべき施設について日南市民は病院や診療所などの医療機関と回答した方が最も多い一方で、市内高校生は大型ショッピングセンターやデパートと回答した方が最も多かった。

【日南市民】



【市内高校生】



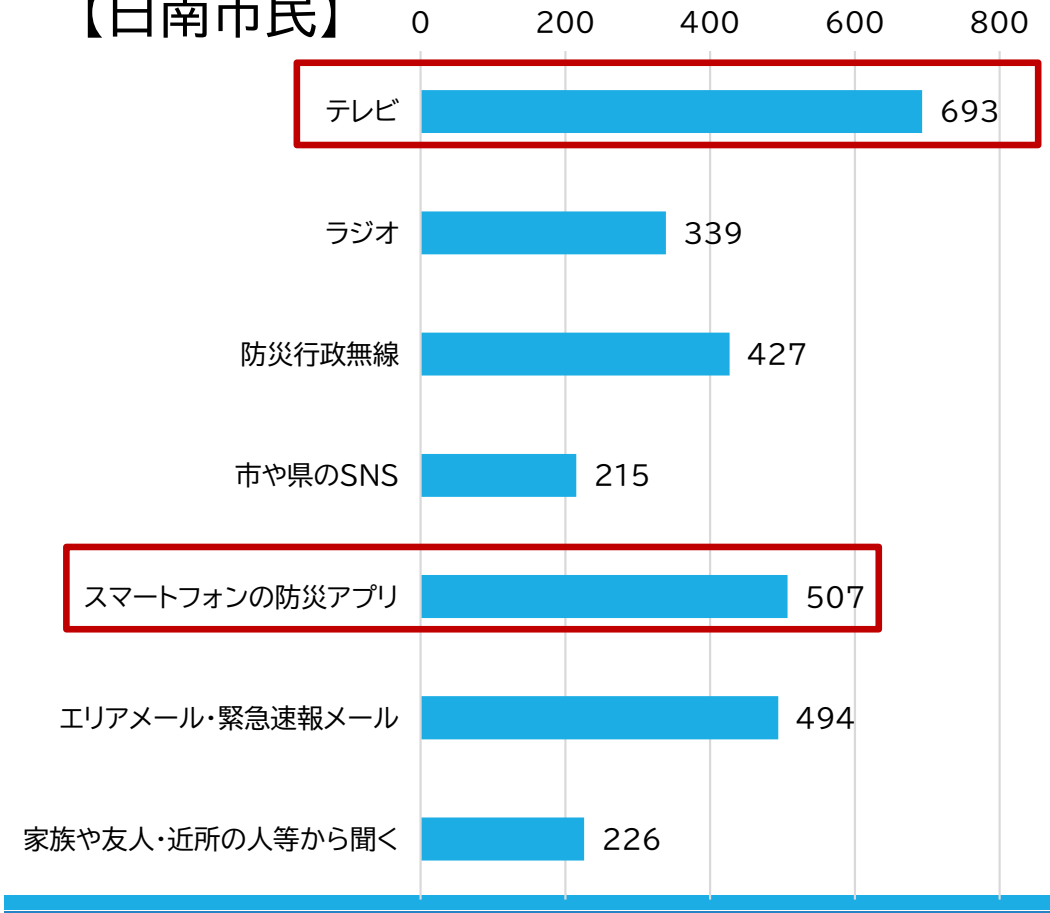
日南市民（左図）と市内高校生（右図） 比較

②防災意識

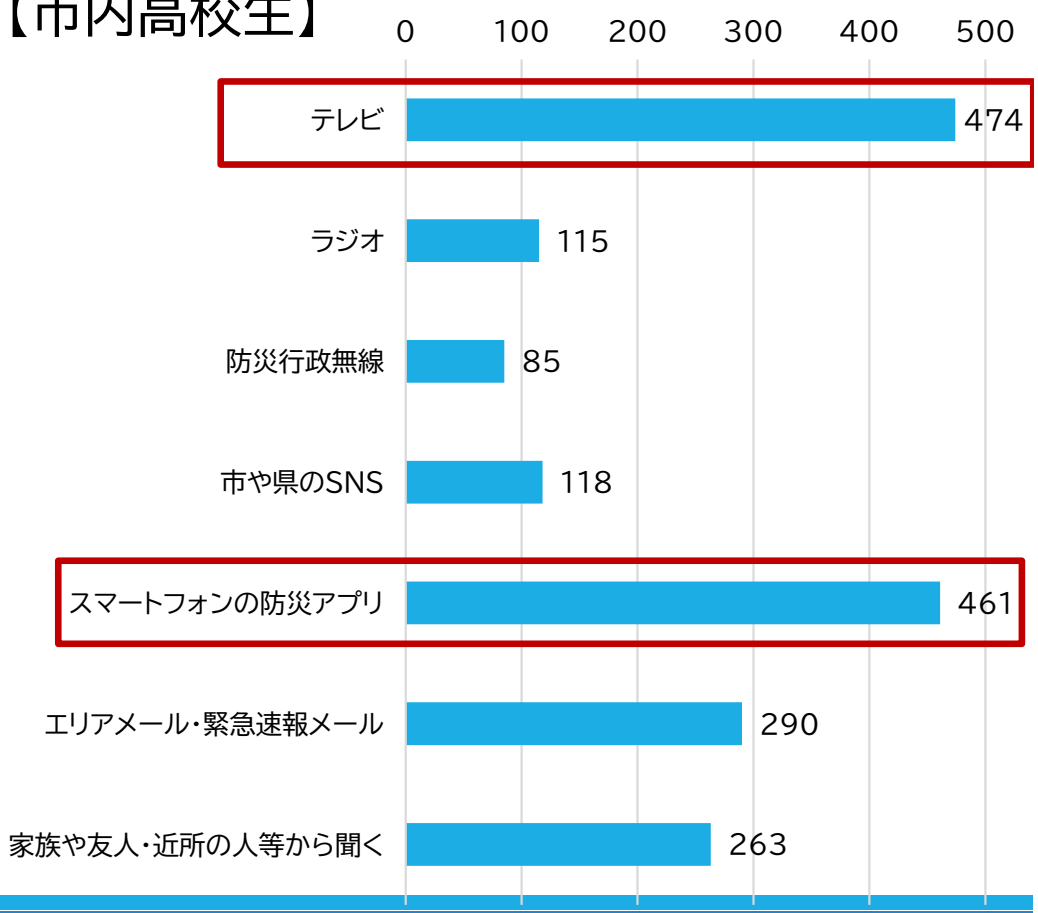
問11.災害情報入手方法(複数回答)

災害情報入手方法について日南市民、市内高校生ともにテレビ、スマートフォンの防災アプリと回答した方が最も多かった。

【日南市民】



【市内高校生】



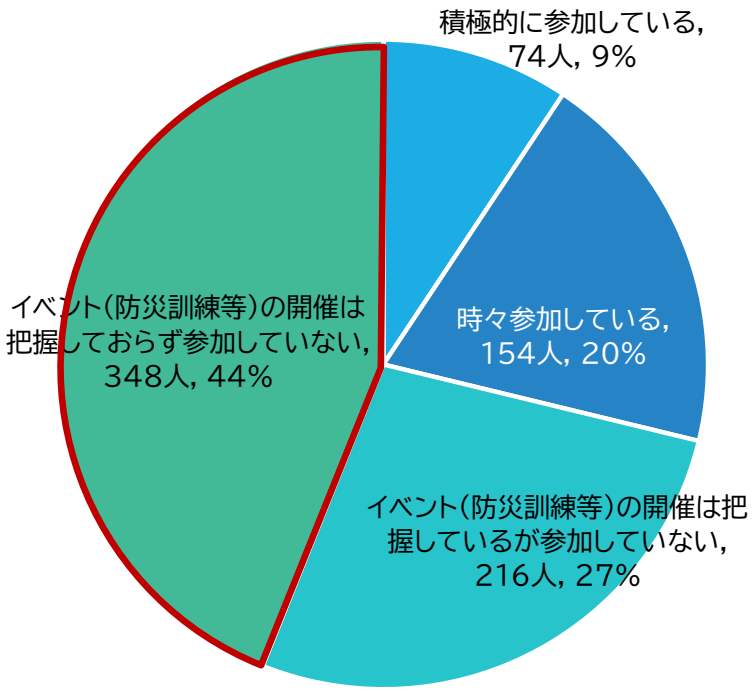
日南市民（左図）と市内高校生（右図） 比較

②防災意識

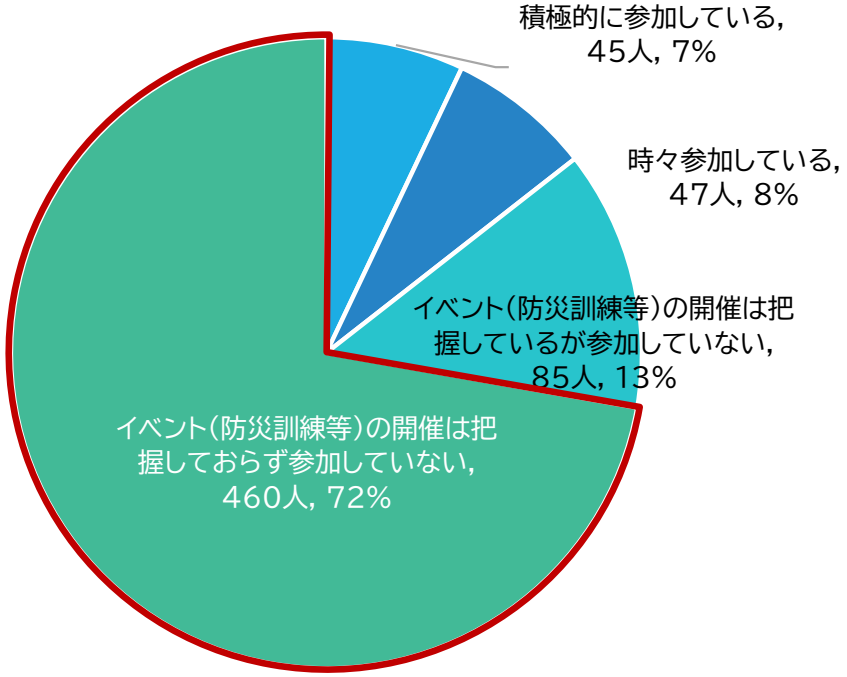
問12. 災害関連のイベント参加有無

災害関連のイベントの参加有無について日南市民、市内高校生ともにイベントの開催は把握しておらず参加していない割合が最も高く、日南市民は44%、市内高校生は72%を占めていた。

【日南市民】N=792



【市内高校生】N=637



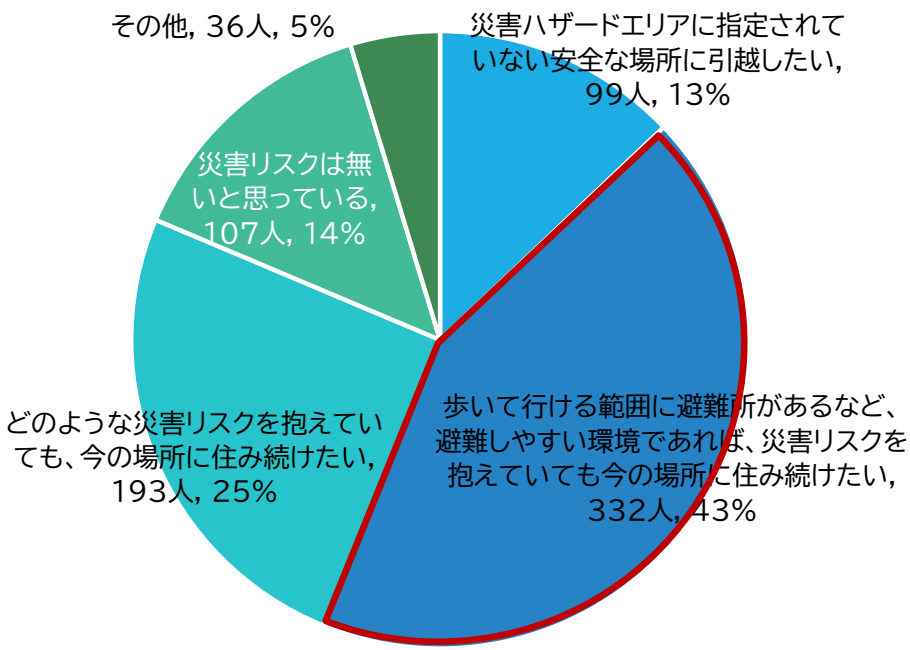
日南市民（左図）と市内高校生（右図） 比較

②防災意識

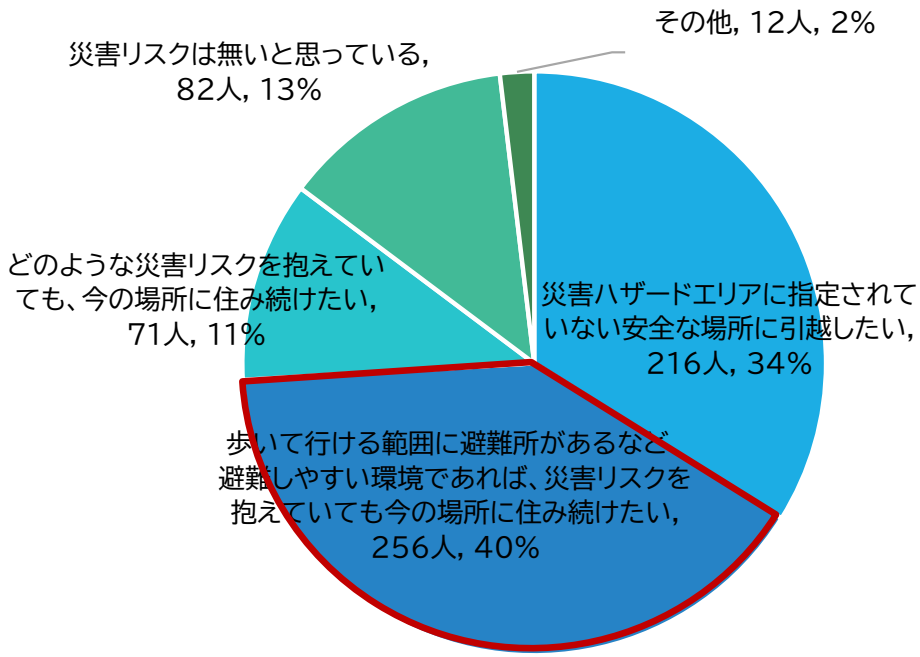
問13. 自然災害を踏まえ住み続けたいか

自然災害を踏まえ住み続けたいかについて日南市民、市内高校生ともに歩いて行ける範囲に避難所があるなど、避難しやすい環境であれば、災害リスクを抱えていても今の場所に住み続けたい割合が最も高く、次いで日南市民はどのような災害リスクを抱えていても、今の場所に住み続けたい割合が25%を占めているのに対し、市内高校生は災害ハザードエリアに指定されていない安全な場所に住み続けたい割合が34%を占めていた。

【日南市民】N=767



【市内高校生N=637



日南市民（左図）と市内高校生（右図） 比較

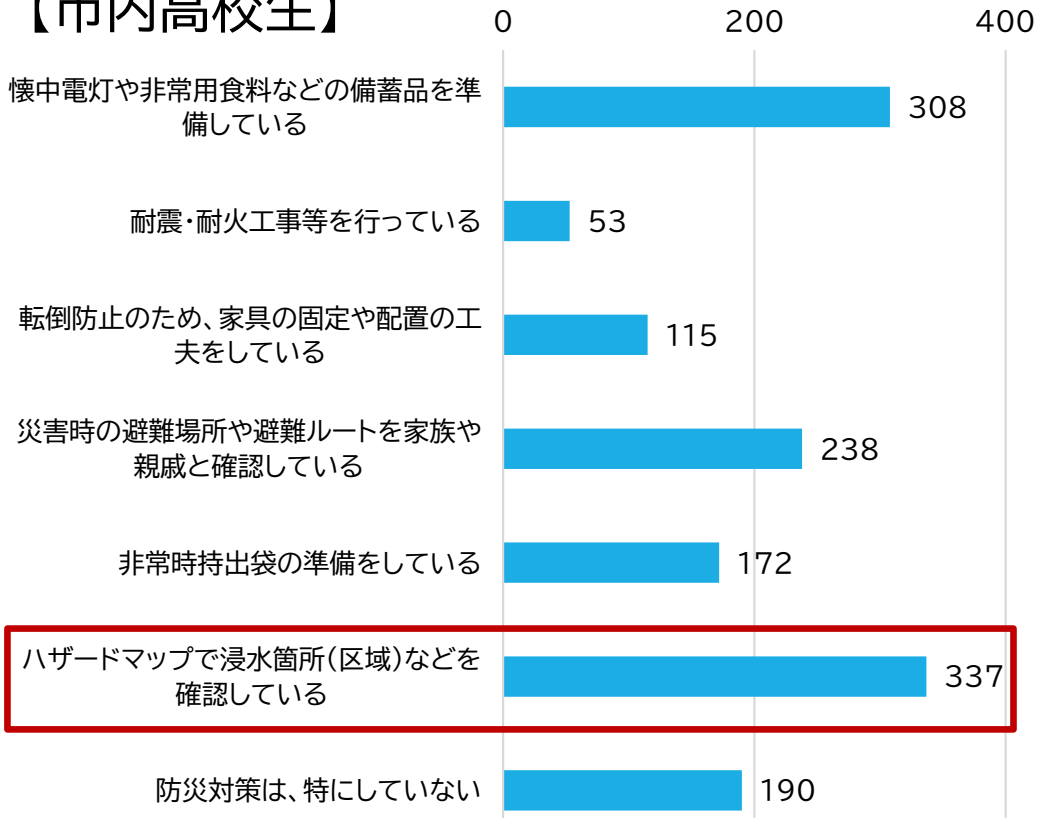
②防災意識

問14. 災害発生時に備えた対策（複数回答）

災害発生時に備えた対策について日南市民は懐中電灯や非常用食料などの備蓄品を準備していると回答した方が最も多い一方で、市内高校生はハザードマップで浸水箇所などを確認していると回答した方が多かった。

【日南市民】

【市内高校生】

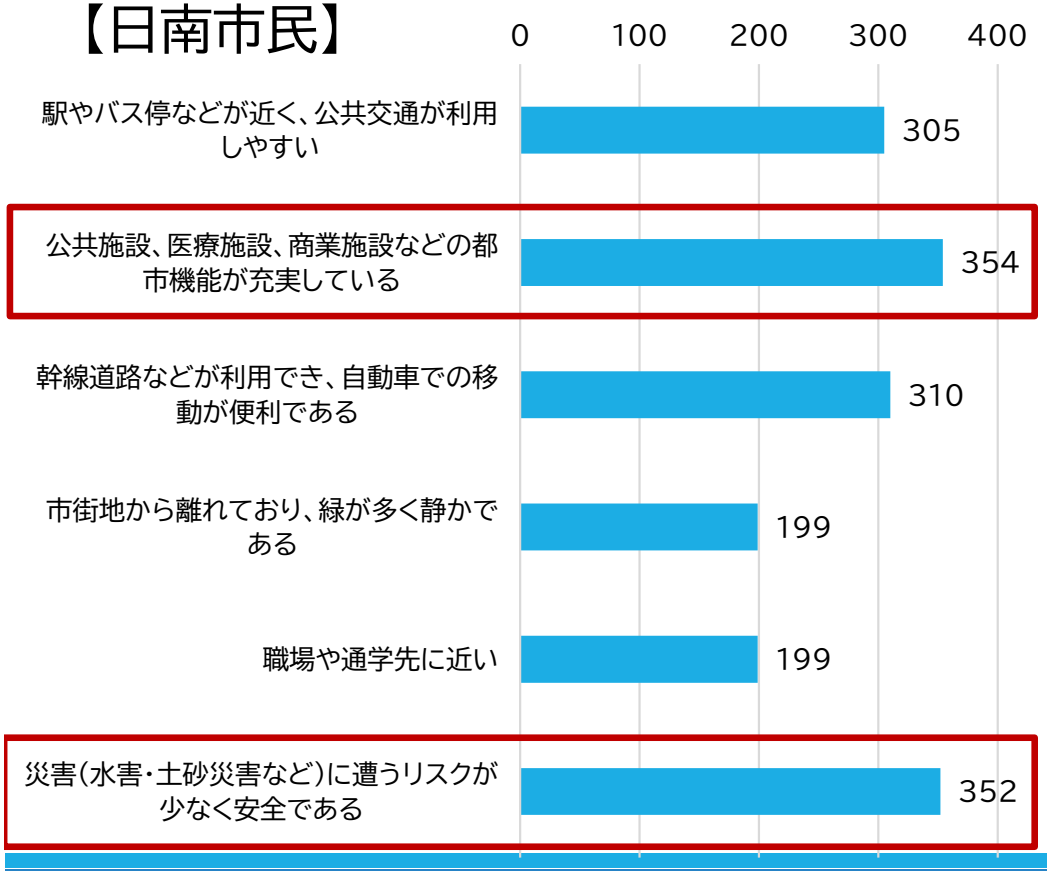


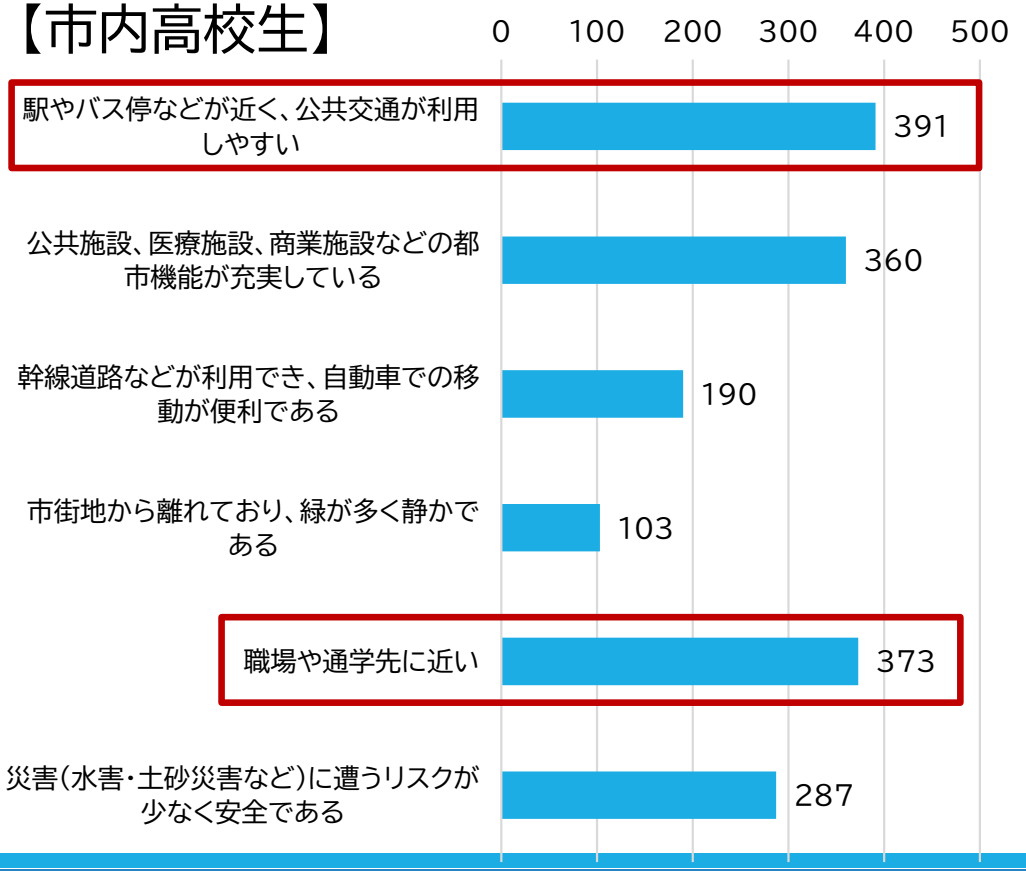
日南市民（左図）と市内高校生（右図） 比較

③将来について

問17. お住まいを決める条件（複数回答）

お住まいを決める条件について日南市民は公共施設、医療施設、商業施設などの都市機能が充実している、災害に遭うリスクが少なく安全であると回答した方が多い一方で市内高校生は駅やバス停などが近く、公共交通が利用しやすい、職場や通学先に近いと回答した方が多かった。



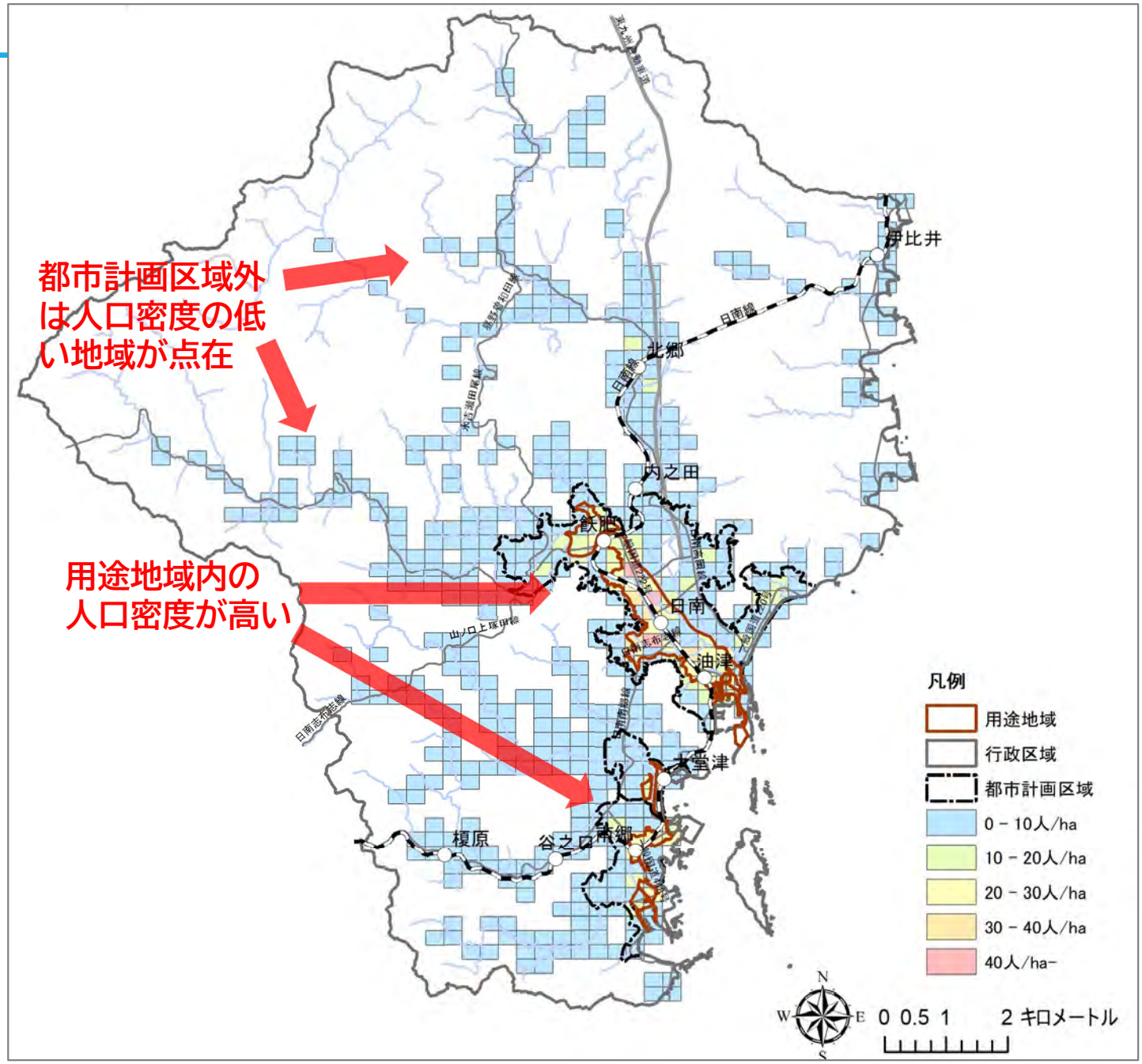


3. 都市構造分析
（市全域）

人口

- 人口密度が高い地域は日南、南郷の両都市計画区域に集中。
- 特に用途地域内の人口密度が高い。
- 都市計画区域外は、伊比井、北郷、内之田、谷之口、榎原などの鉄道駅や幹線道路沿道などに人口密度の低い地域が点在。

【2020年人口（実績）】

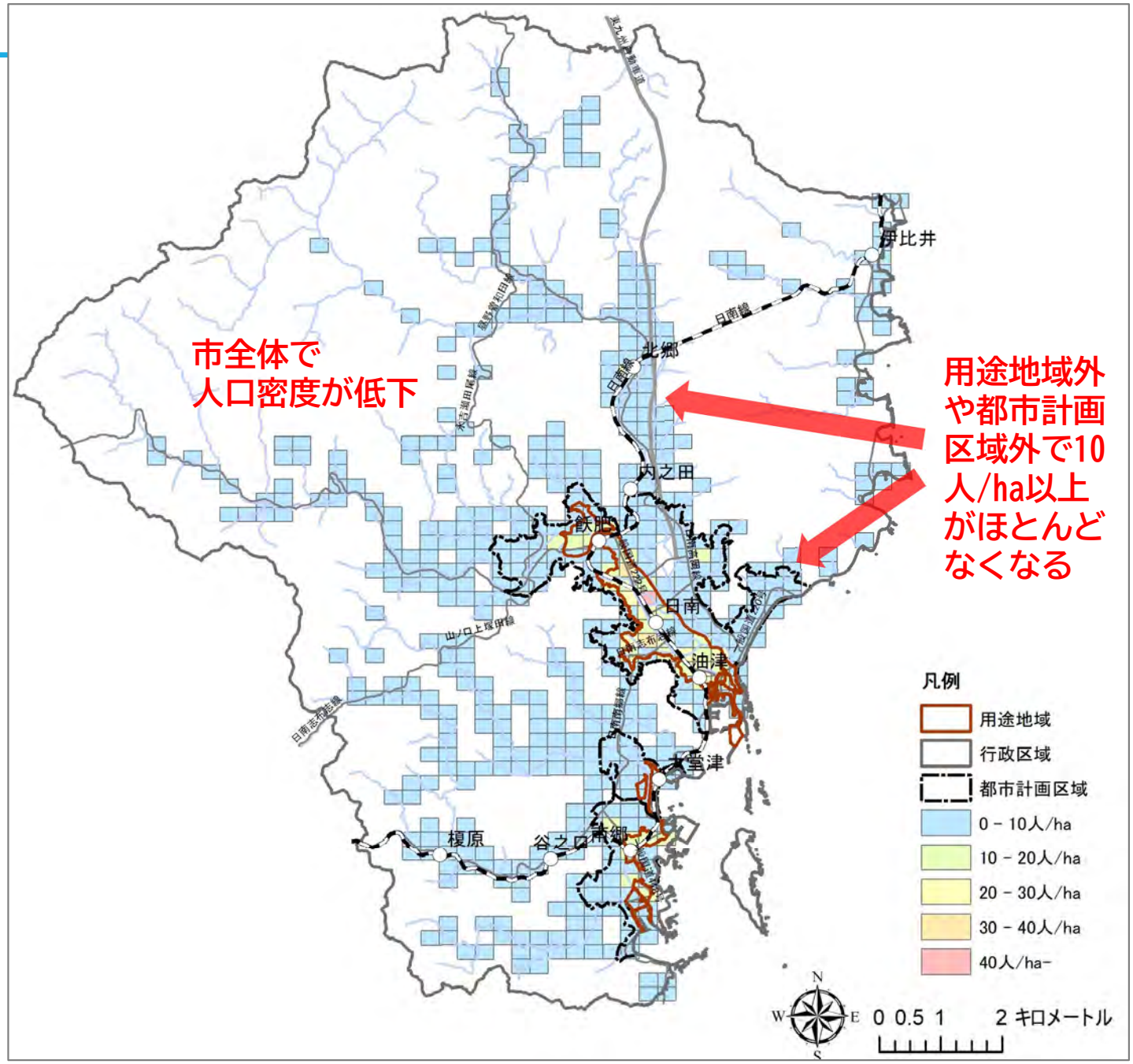


資料：国土数値情報（国土交通省）

人口

- 将来は、市全体で人口密度が低下。
- 都市計画区域内の用途地域外や都市計画区域外では10人/ha以上の地域がほとんどなくなる。

【2045年人口（将来）】

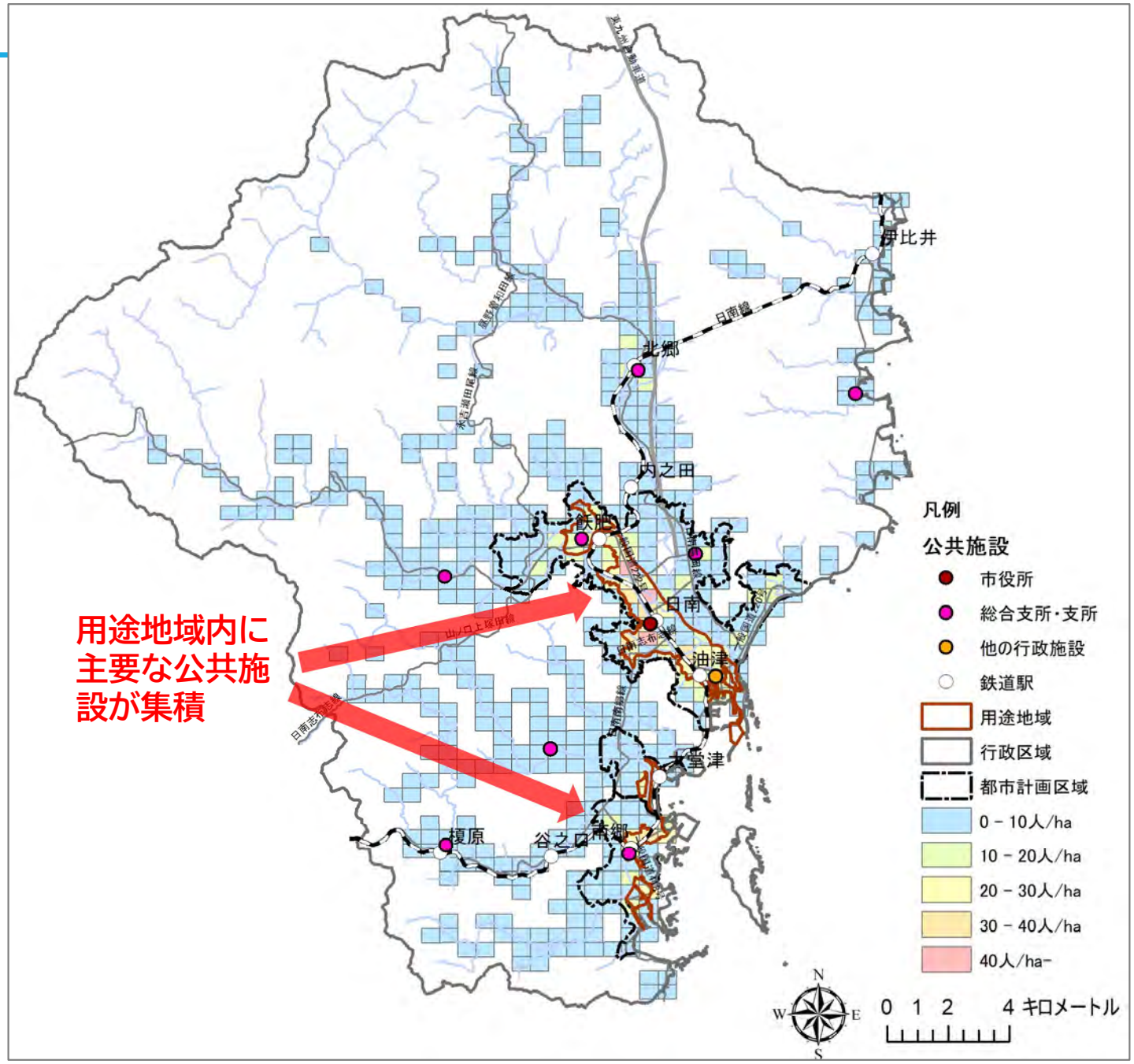


資料：国土数値情報（国土交通省）

公共施設

・市役所などの主要な公共施設は用途地域内に多いが、北郷、鵜戸、酒谷、細田にも支所などが立地。

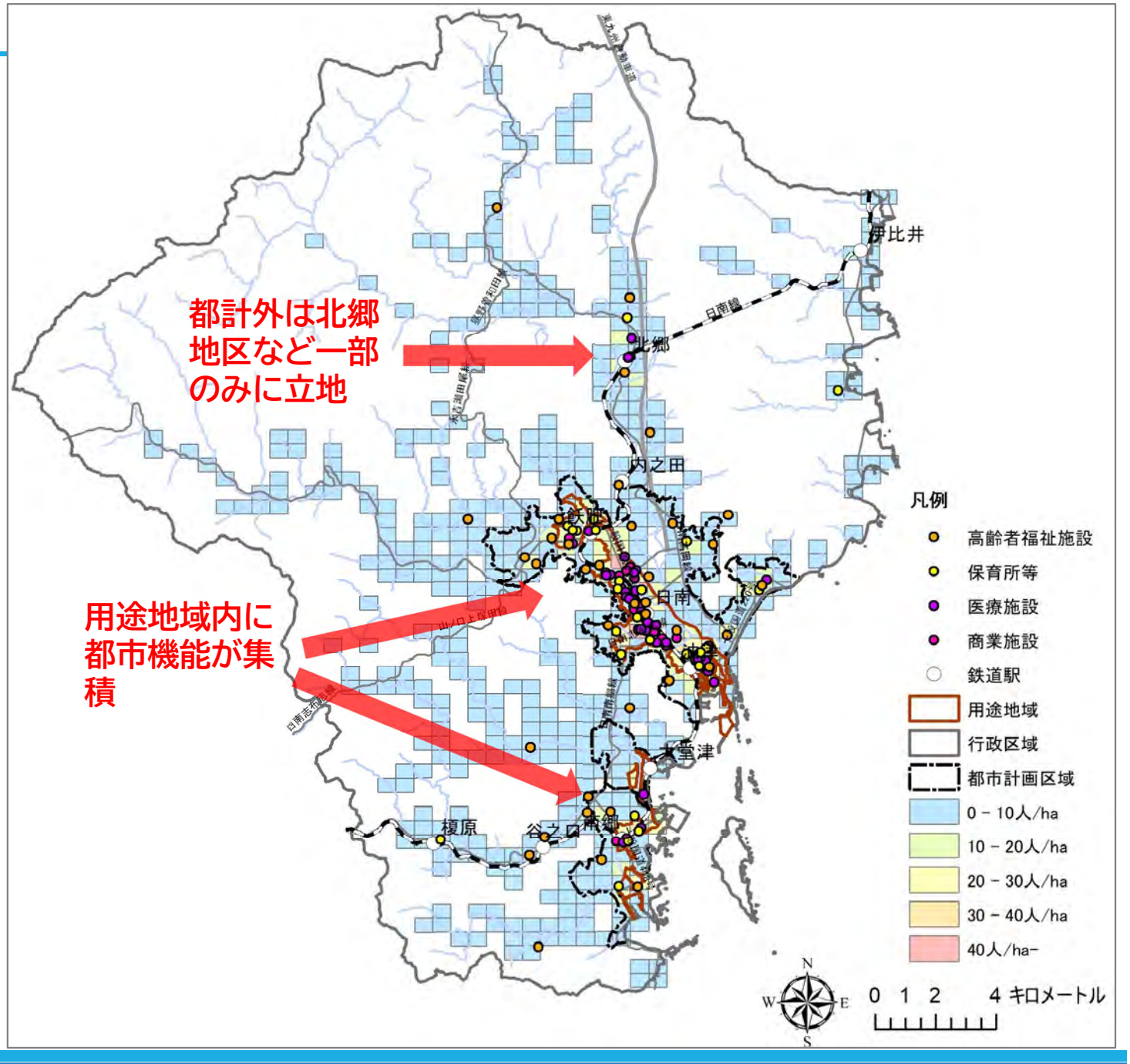
【公共施設と2020年人口】



都市機能

- 商業、医療、子育て、高齢者福祉などの都市機能は用途地域内に集積。
- 都市計画区域外では北郷地区などの一部のみで立地。

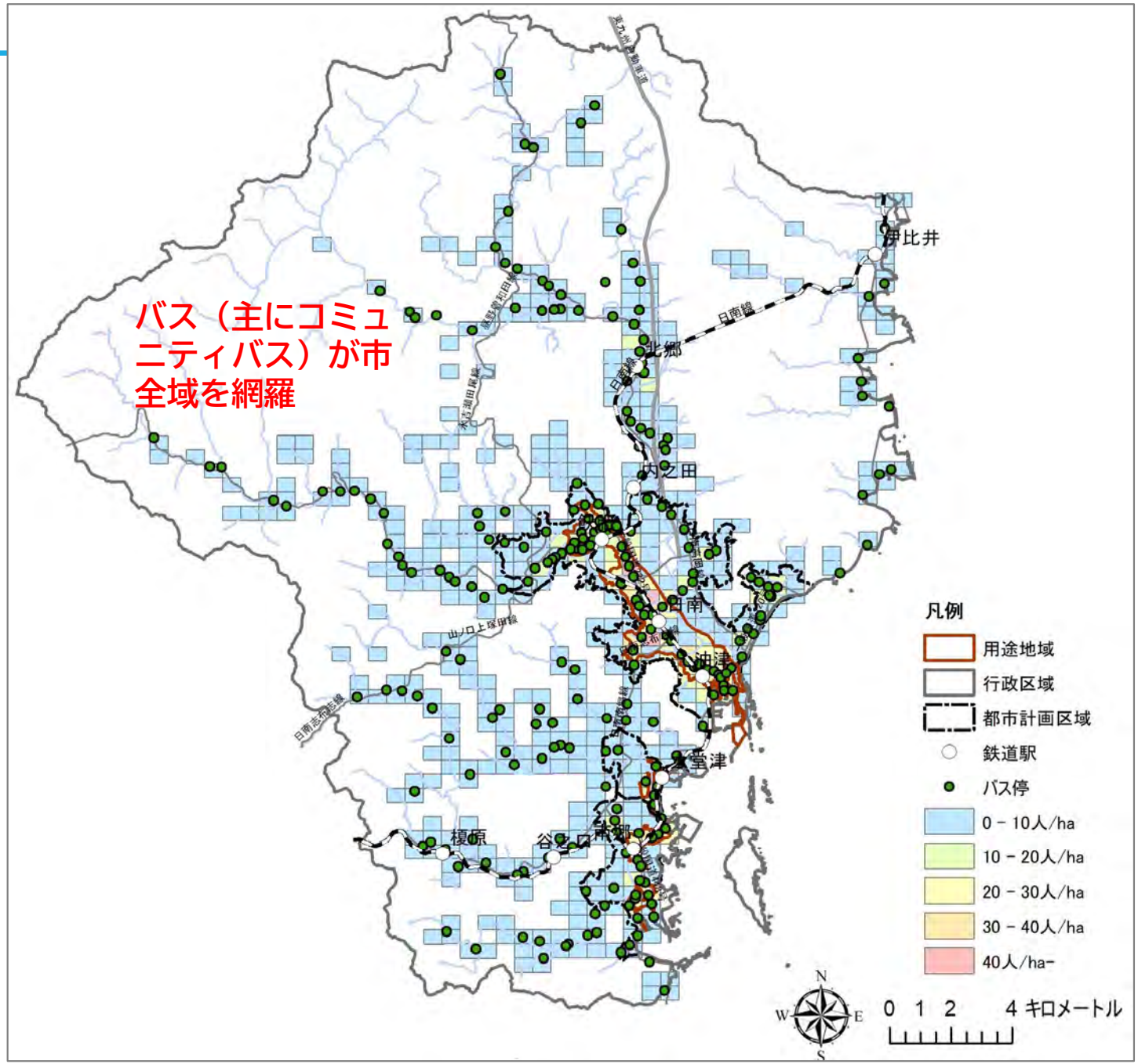
【都市機能と2020年人口】



公共交通

- JR日南線を中心に市街地が広がっている。
- バス路線網（主にコミュニティバス）が市全域を網羅。

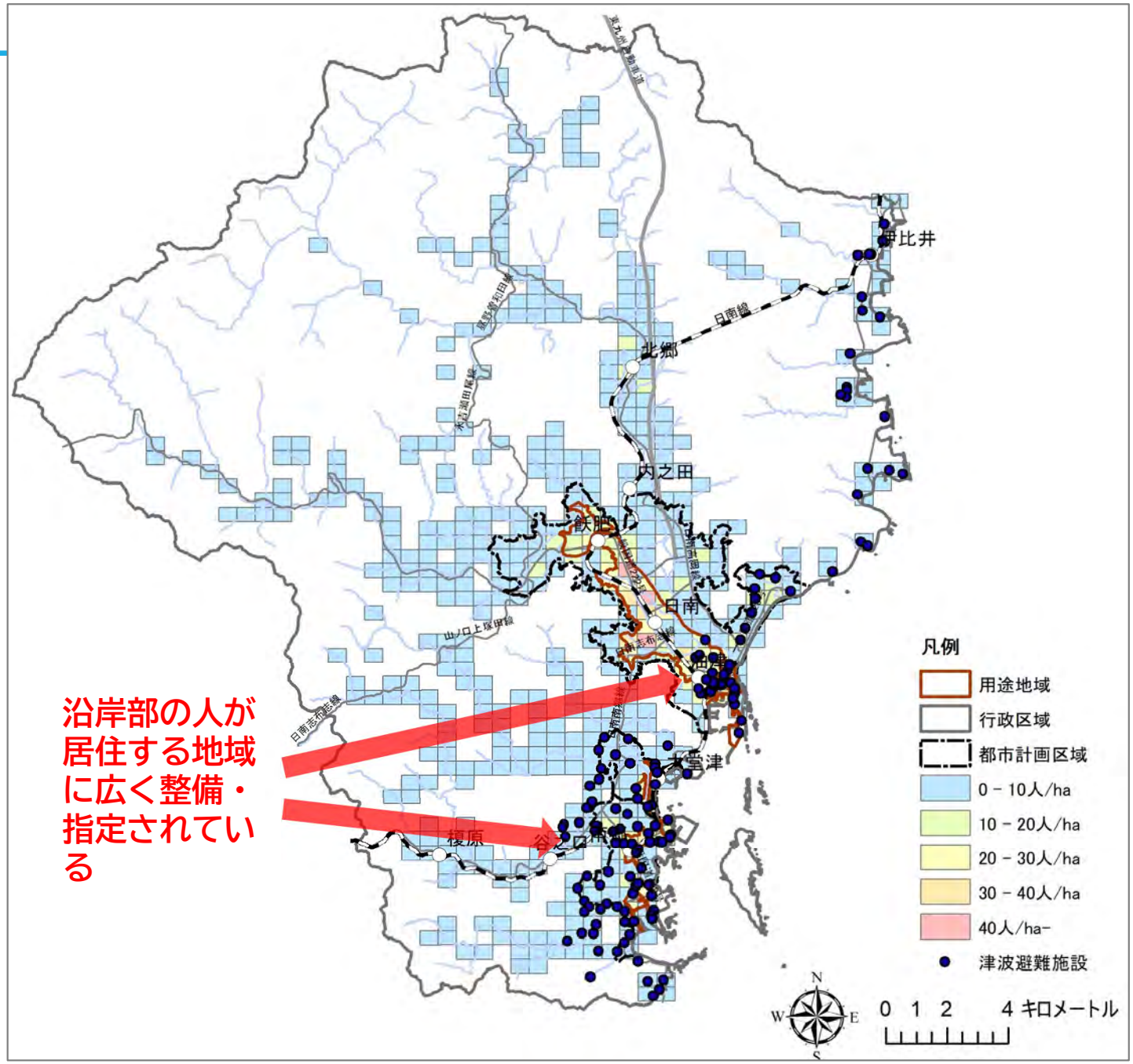
【公共交通と2020年人口】



津波避難施設

・津波避難施設・津波避難場所は、沿岸部の人が居住する地域に広く整備・指定されている。

【津波避難施設と2020年人口】



まとめ

（都市構造分析（市全域）まとめ）

人口	・用途地域内の人口密度が高い。 ・都市計画区域外は、伊比井、北郷、内之田、谷之口、榎原などの鉄道駅や幹線道路沿道などに人口密度の低い地域が点在・将来は、市全体で人口密度が低下。 ・都市計画区域内の用途地域外や都市計画区域外では10人/ha以上の地域がほとんどなくなる。
公共施設	・市役所などの主要な公共施設は用途地域内に多いが、北郷、鵜戸、酒谷、細田にも支所などが立地。
都市機能	・商業、医療、子育て、高齢者福祉などの都市機能は用途地域内に集積。 ・都市計画区域外では北郷地区などの一部で立地。
公共交通	・JR日南線を中心に市街地が広がっている。 ・バス路線網（主にコミュニティバス）が市全域を網羅。

（課題整理）

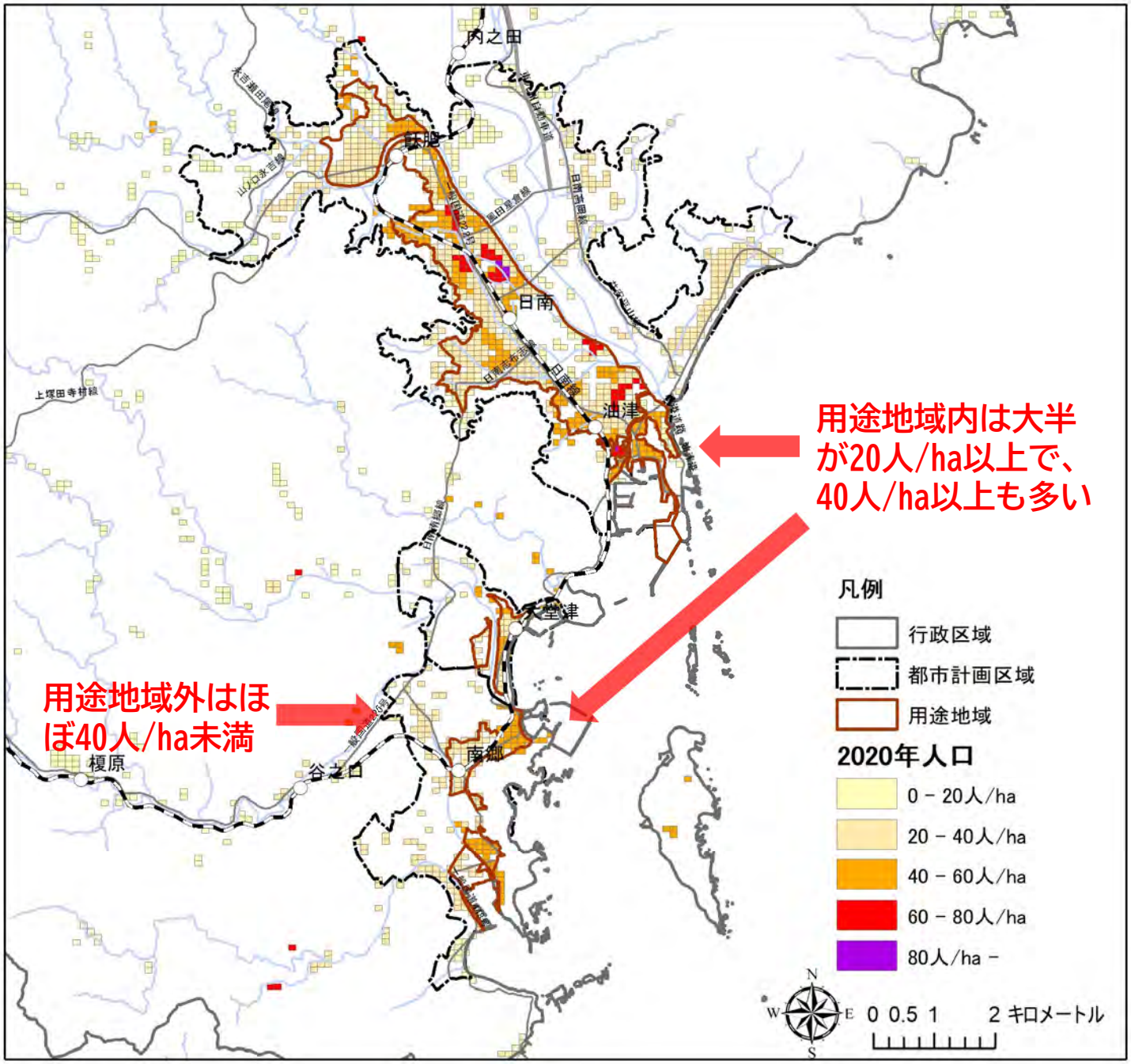
・各種都市機能の用途地域内の集積を維持し、拠点性を持続させることが必要。
・都市計画区域外から市中心部への公共交通を引き続き確保し、市民生活の利便性を維持していくことが必要。

4. 都市構造分析
（都市計画区域）

人口

- 用途地域内は、日南、南郷ともに大半が20人/ha以上であり、40人/ha以上も多い。
- 用途地域外はほぼ40人/ha未満となっている。

【人口（2020年（実績））】

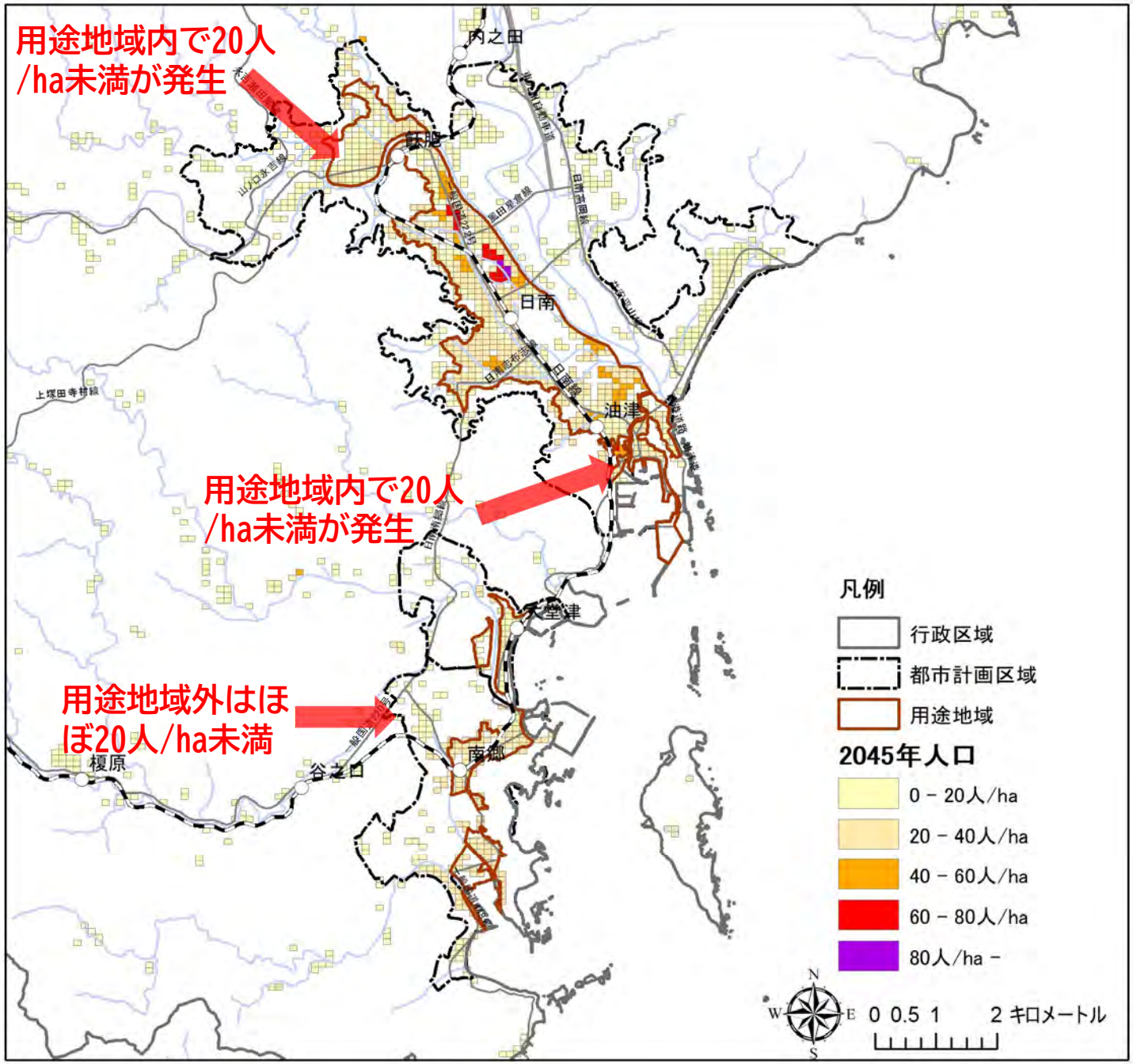


資料：将来人口・世帯予測ツール（国土交通省国土技術政策総合研究所）により作成

人口

- 用途地域内は、飫肥駅や油津駅周辺などで20人/ha未満に減少する地域が発生しており、古くからの市街地での人口減少が顕著。
- 用途地域外は、ほぼ20人/ha未満へ減少。

【人口（2045年（将来））】



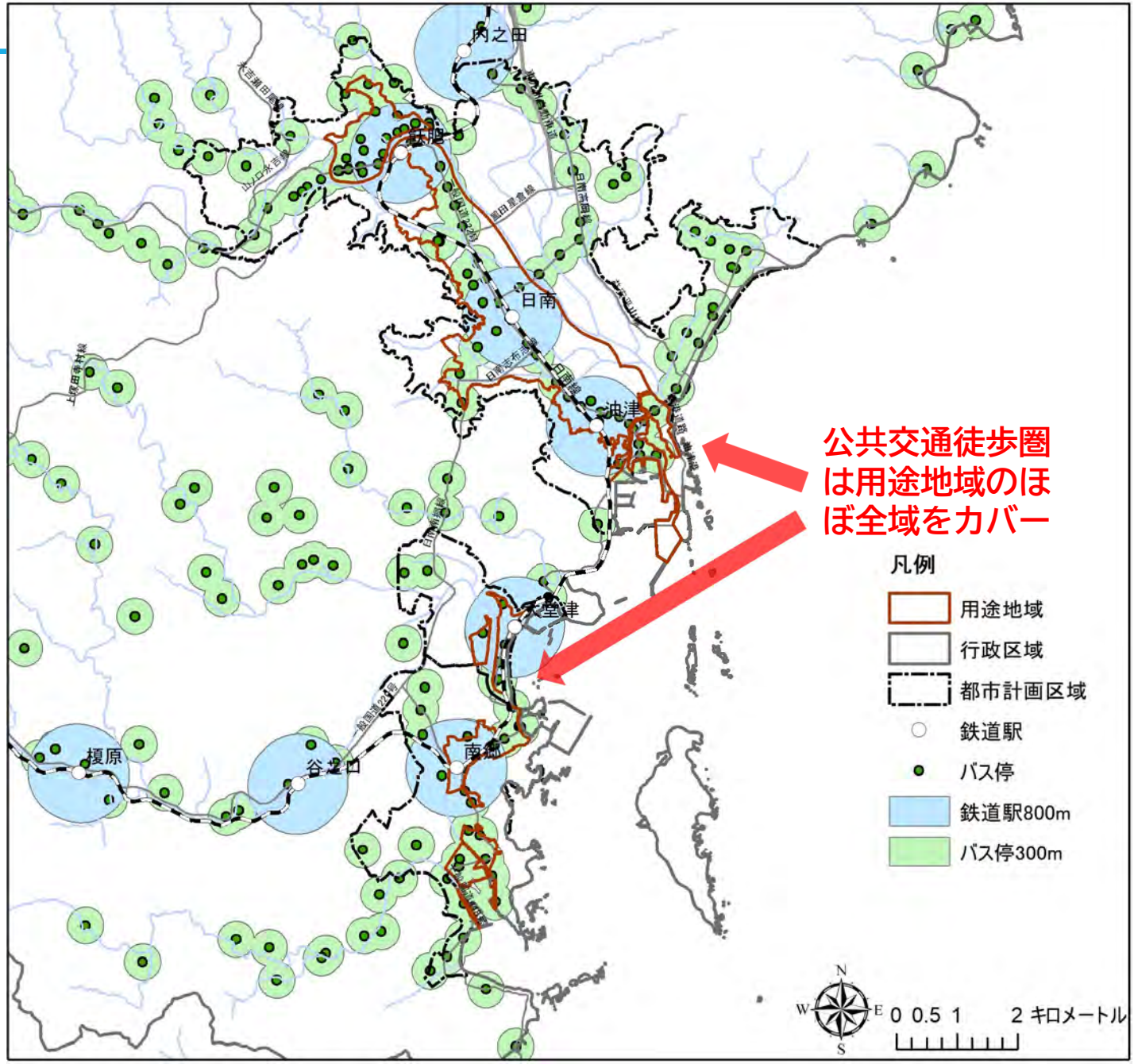
資料：将来人口・世帯予測ツール（国土交通省国土技術政策総合研究所）により作成

公共交通

- 公共交通の徒歩圏（鉄道駅800m、バス停300m）は用途地域のほぼ全域をカバー。
- 運行本数は多くないものの、公共交通を利用できる環境にはある。

※鉄道駅800m、バス停300mの徒歩圏域は「都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省）」による
※鉄道駅、バス停は国土数値情報（国土交通省）より

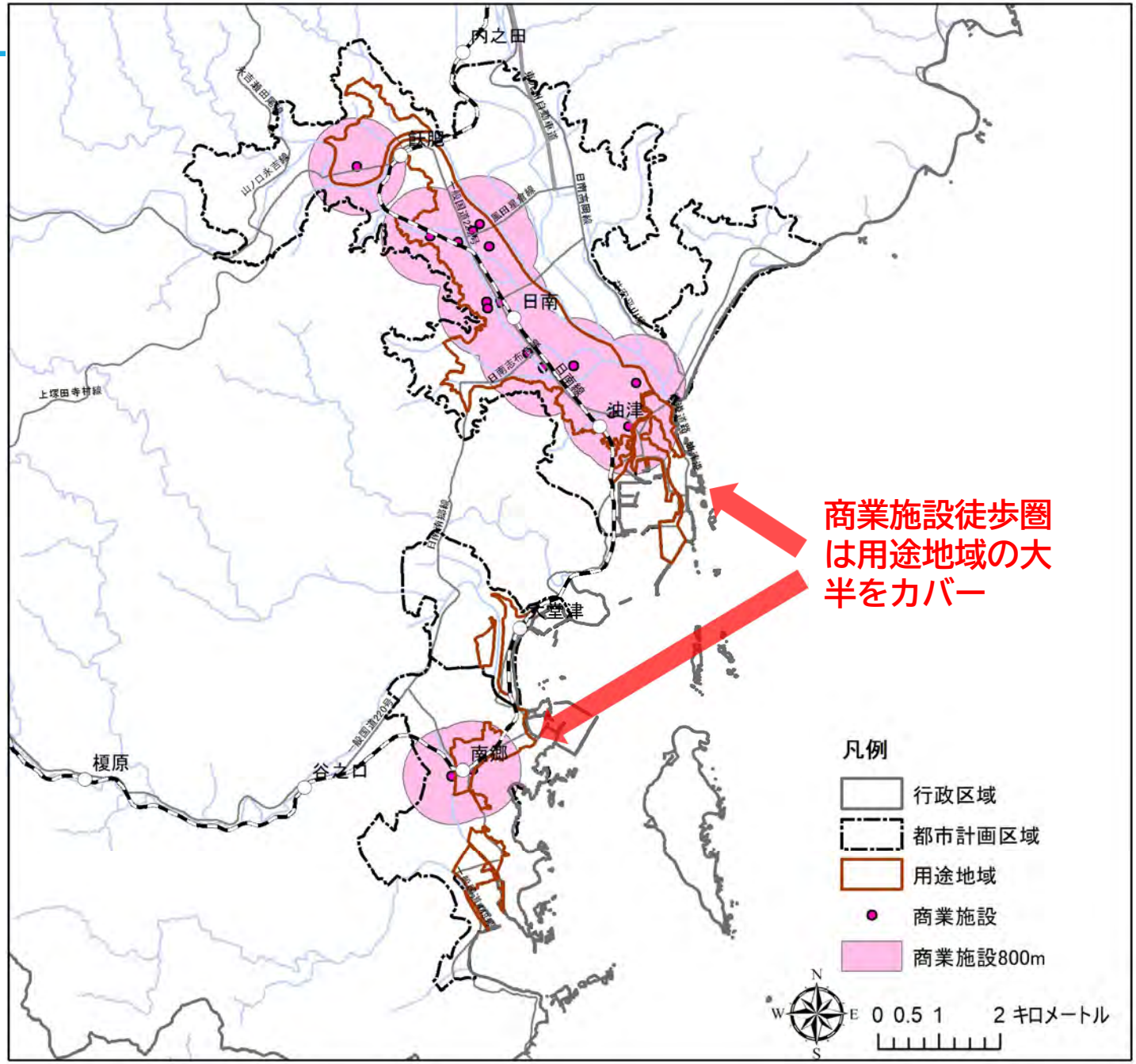
【公共交通徒歩圏】



商業施設

・商業施設の徒歩圏は、大堂津駅や外浦港周辺を除いて大半の用途地域をカバーしており、日常的な買い物の利便性は高い。

【商業施設徒歩圏】

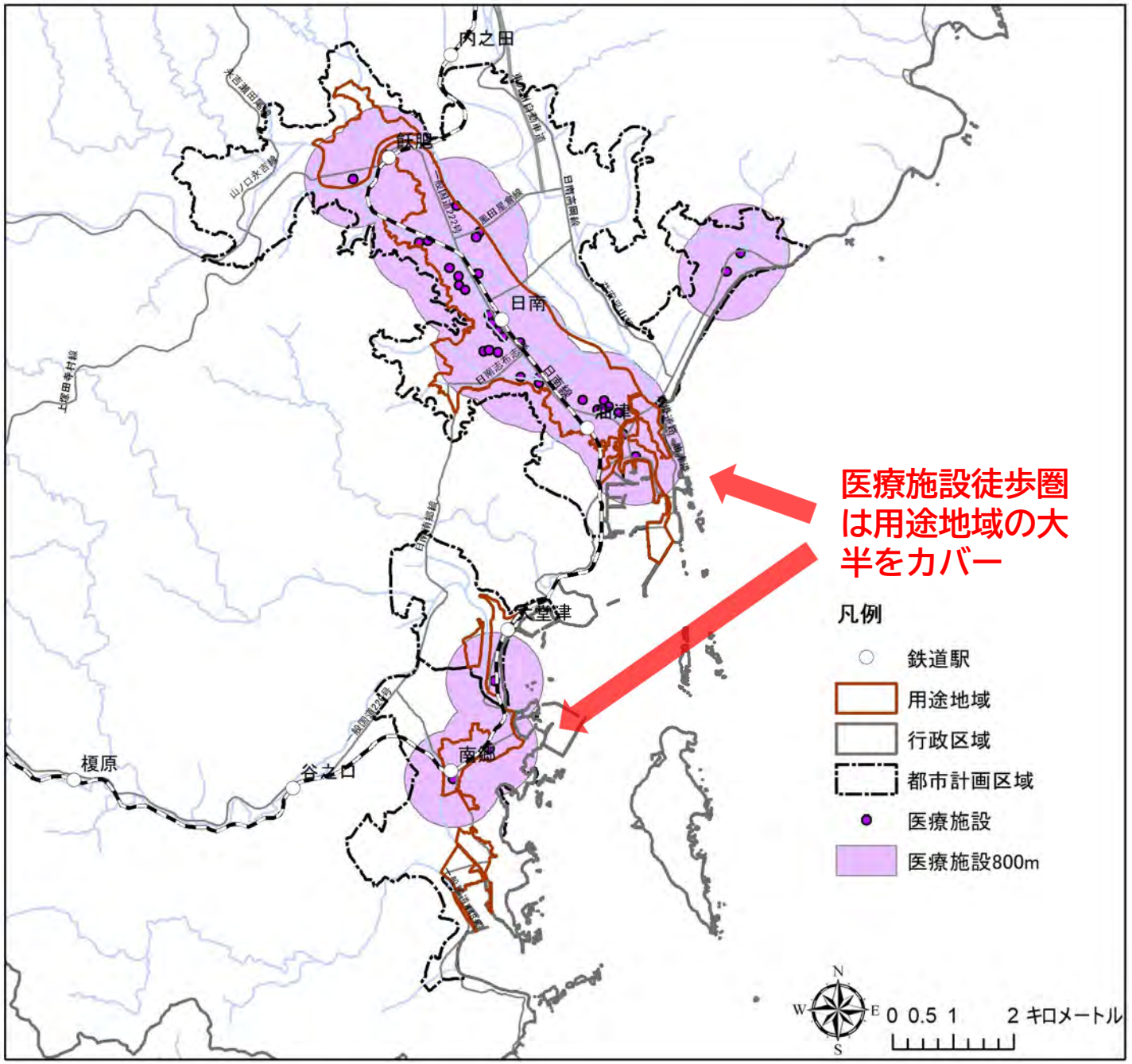


※商業施設800mの徒歩圏域は「都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省）」による
※商業施設は日南市地域交通網形成計画（平成31年3月）を一部修正

医療施設

・医療施設の徒歩圏は、大堂津駅や外浦港周辺を除いて、大半の用途地域をカバーしており、日常的に受診できる環境は整っている。

【医療施設徒歩圏】

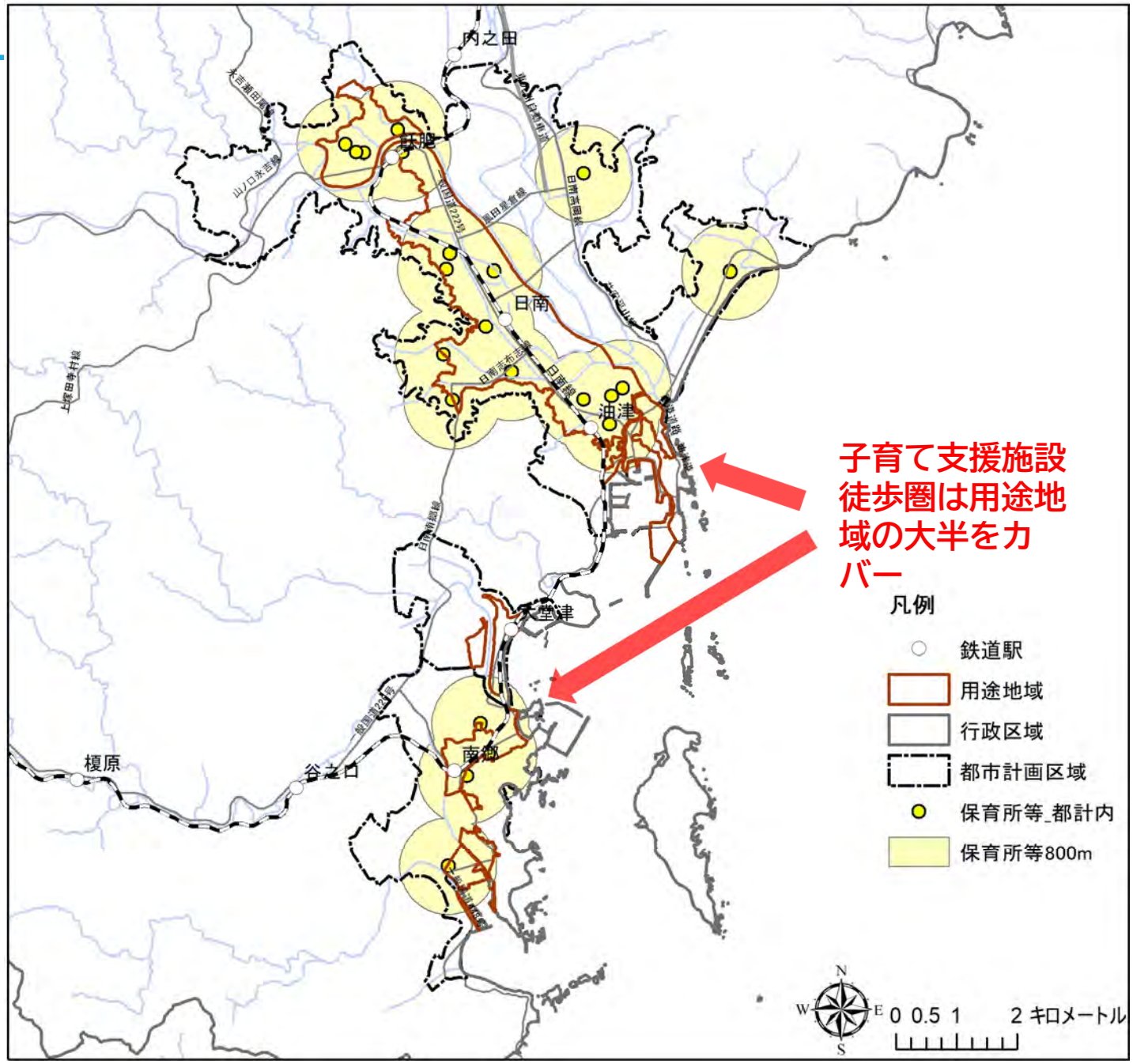


※医療施設800mの徒歩圏域は「都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省）」による
※医療施設は日南市地域交通網形成計画（平成31年3月）を一部修正

子育て支援施設

・子育て支援施設の徒歩圏は、大堂津駅周辺を除いて大半の用途地域をカバーしており、子育て環境は整っている。

【子育て支援施設徒歩圏】



※子育て支援施設800mの徒歩圏域は「都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省）」による

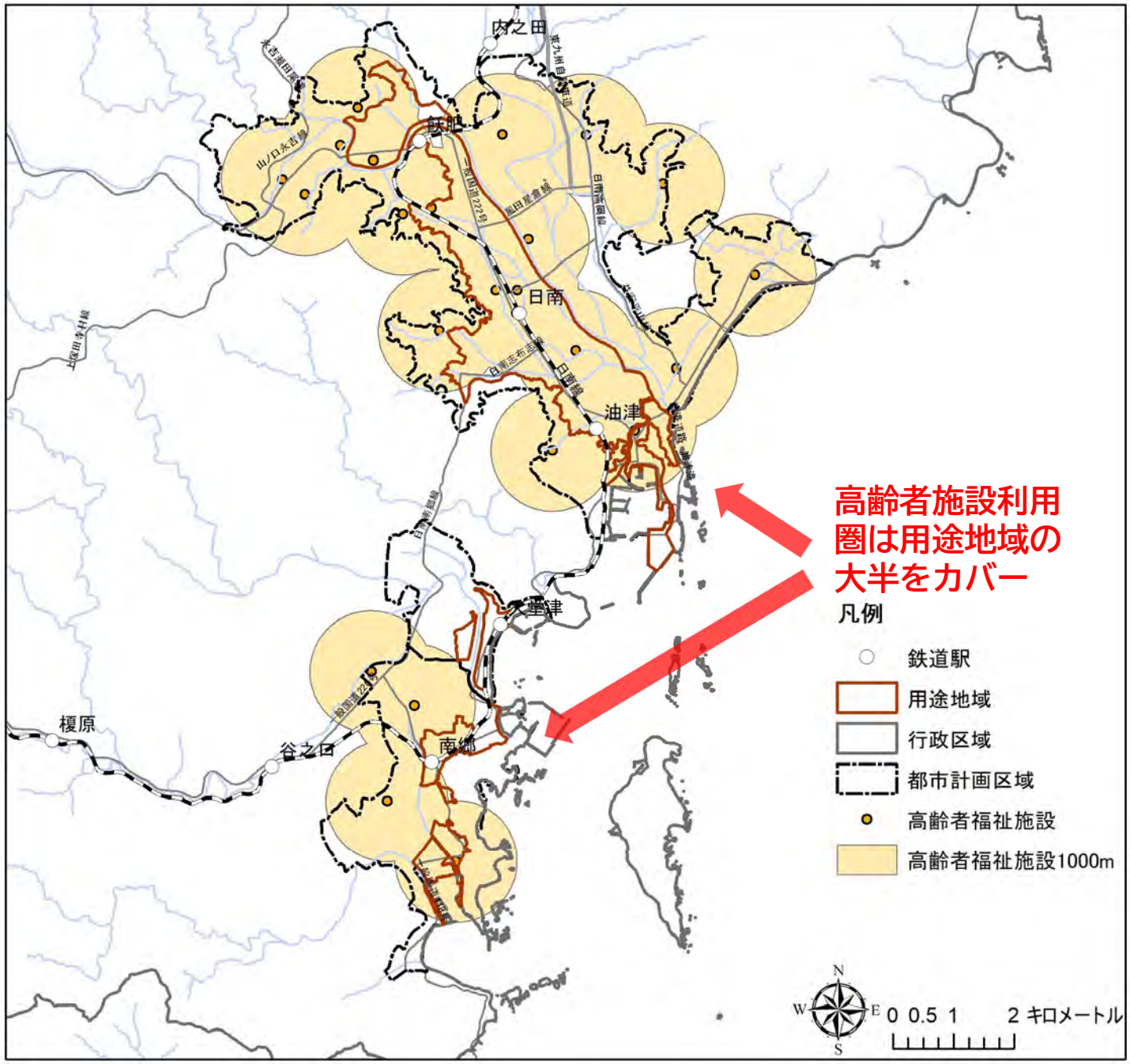
※子育て支援施設
- 認可保育所
- 認定こども園
- 小規模保育施設
- 認可外保育施設

（令和6年度日南市内の保育施設一覧より）

高齢者福祉施設

・高齢者福祉施設の利用圏は、大堂津駅周辺を除いて大半の用途地域をカバーしており、高齢者福祉の環境は整っている。

【高齢者福祉施設利用圏】

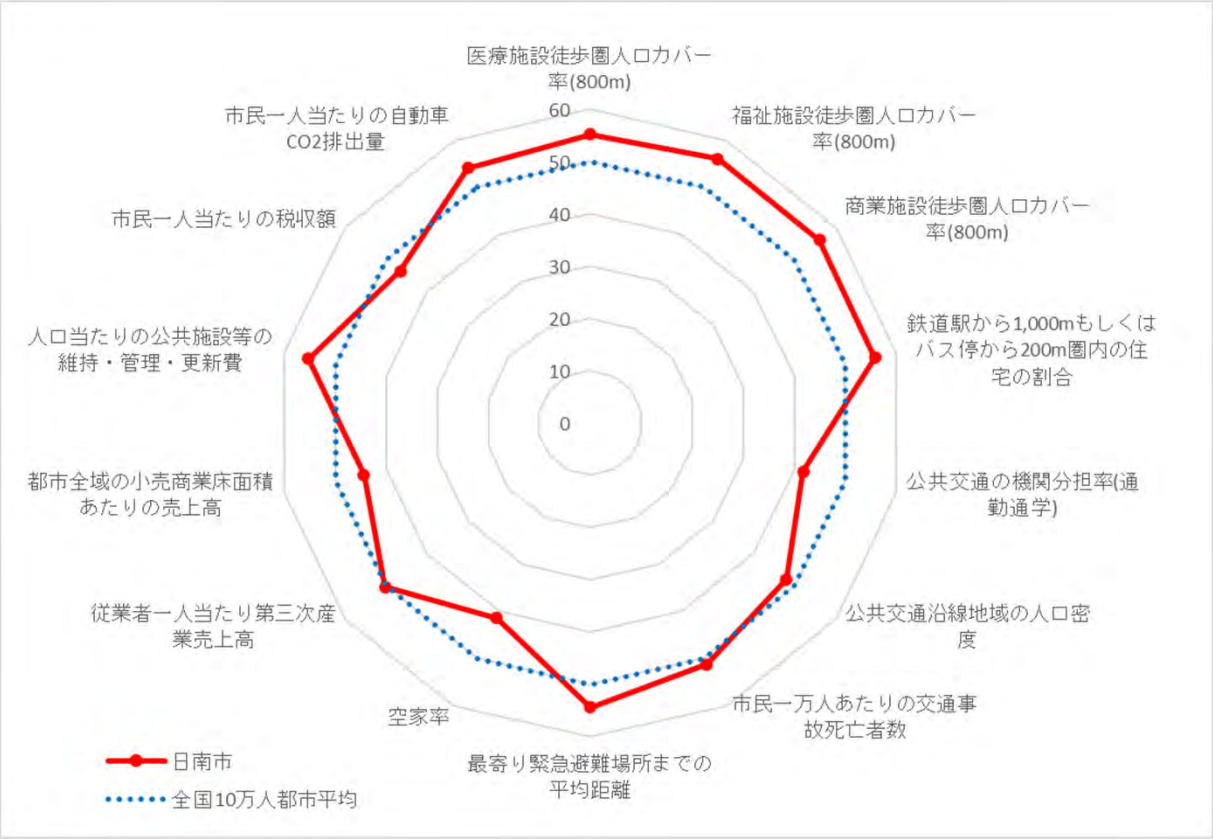


※高齢者施設施設1,000mの利用圏域は「都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省）」による
※高齢者福祉施設
・通所介護
・地域密着型通所介護
・地・認知症対応型通所介護
（日南市地域防災計画より）

類似都市（全国の人口10万人以下の都市）との比較

・日常生活面で、医療、福祉、商業、公共交通の利便性は類似都市より高く、環境は整っているが、公共交通の利用率は低い。
・安全性の面で空き家率が高く、また1人当たり税収が低く財政面で厳しい。

【類似都市との比較（偏差値）】



【類似都市との比較】

指標	単位	日南市	全国10万人都市平均	偏差値（10万人以下）
医療施設徒歩圏人口カバー率	%	64.4	54.1	55.2
福祉施設徒歩圏人口カバー率	%	50.3	34.8	56.1
商業施設徒歩圏人口カバー率	%	44.6	31.6	56.0
鉄道駅から1,000mもしくはバス停から200m圏内の住宅の割合	%	61.1	51.4	55.9
公共交通の機関分担率(通勤通学)	%	4.0	8.4	41.8
公共交通沿線地域の人口密度	人/ha	8.9	10.7	47.9
市民一万人あたりの交通事故死亡	人	0.4	0.5	51.3
最寄り緊急避難場所までの平均距	m	580.2	747.3	54.4
空家率	%	13.6	9.5	41.4
従業者一人当たり第三次産業売上	百万円/人	13.0	12.7	50.2
都市全域の小売商業床面積あたりの売上高	万円/㎡	72.8	82.2	44.4
人口当たりの公共施設等の維持・管理・更新費	千円	488.7	854.7	55.3
市民一人当たりの税収額	千円	91.8	120.0	46.5
市民一人当たりの自動車CO2排出	t-CO2/年	1.3	1.7	54.1

※都市のモニタリングシート（国土交通省）より作成

まとめ

（都市構造分析（都市計画区域）まとめ）

人口	・用途地域内は大半が20人/ha以上であり、40人/ha以上も多い。 ・将来は、飯肥駅や油津駅周辺などで20人/ha未満に減少する地域が発生しており、古くからの市街地での人口減少が顕著。
公共交通	・公共交通の徒歩圏は用途地域のほぼ全域をカバー。 ・運行本数は多くないものの、公共交通を利用できる環境にはある。
都市機能	・商業施設、医療施設、子育て支援施設の徒歩圏、高齢者福祉施設の利用圏は、大半の用途地域をカバーしており、都市機能の利用環境は整っている。
類似都市比較	・日常生活面で、医療、福祉、商業、公共交通の利便性は類似都市より高く、環境は整っているが、公共交通の利用率は低い。 ・安全性の面で空き家率が高く、また1人当たり税収が低く財政面で厳しい。

（課題整理）

・市全体の生活利便性を確保していくため、鉄道駅を中心とした用途地域内への都市機能の維持と誘導が必要。
・効率的な都市を構築していくために、都市基盤などの既存ストックが残る市街地への居住の誘導が必要。

5. 災害リスク分析

災害リスク分析の方法

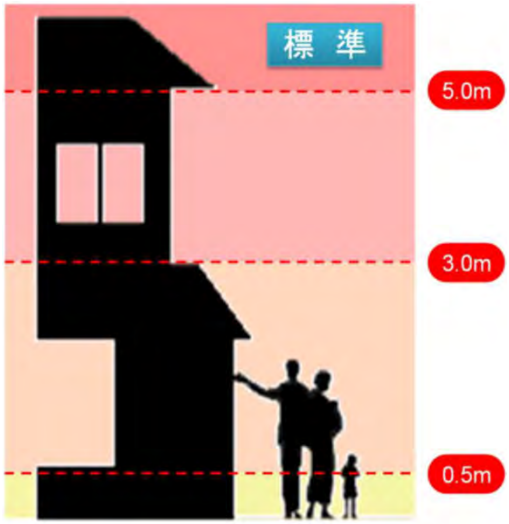
・対象とする災害は、洪水（想定最大規模、計画規模）、津波、高潮、土砂災害の４種類。
・リスクの高さは、以下のとおり設定.。

【災害リスクの種類と区分】

	災害リスクの高いエリア	その他の災害リスクエリア
洪水浸水 高潮浸水	浸水深3.0m以上	浸水深0.5～3.0m
津波浸水	浸水深2.0m以上	浸水深2.0m未満
土砂災害	土砂災害特別警戒区域 （レッドゾーン）	土砂災害警戒区域 （イエローゾーン）

災害リスク分析の方法

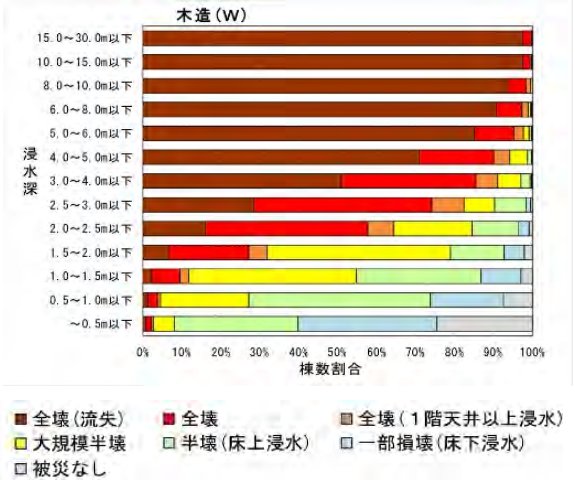
【洪水、高潮】



・浸水深さが3.0mを超えると一般的な2階建の建物では垂直避難が困難となる。
・浸水深は、0.5mを超えると床上浸水となるため、２階への避難が必要となる。

資料：水害ハザードマップ作成の手引き、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課水防企画室／平成28年4月

【津波】



・木造建物が多い市街地での許容浸水深の目安として、「市街地（集落）の壊滅的被害をもたらさない浸水程度としては、安全で確実な避難が可能であることを確認した上で、概ね2.0m未満」とされている。

資料：「津波被災市街地復興手法検討調査（とりまとめ）」（平成24年4月 国交省都市局）

【土砂災害】

■土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）
　土砂災害防止法において、「急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずる恐れがあると認められる区域」に指定されていることから、警戒情報に留意し水平避難が必要。

■土砂災害特別警戒区域（イエローゾーン）
　土砂災害防止法において、「急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域」に指定されているものの、開発行為に対する制限等は為されていないことから、警戒情報に留意し水平避難が必要。

洪水（想定最大規模）

- 飫肥地区や日南線と酒谷川間等で浸水深３ｍ以上となっており、現状、用途地域内で約1万人が居住。
- 将来には減少するものの、市全体に対する割合は増加する。

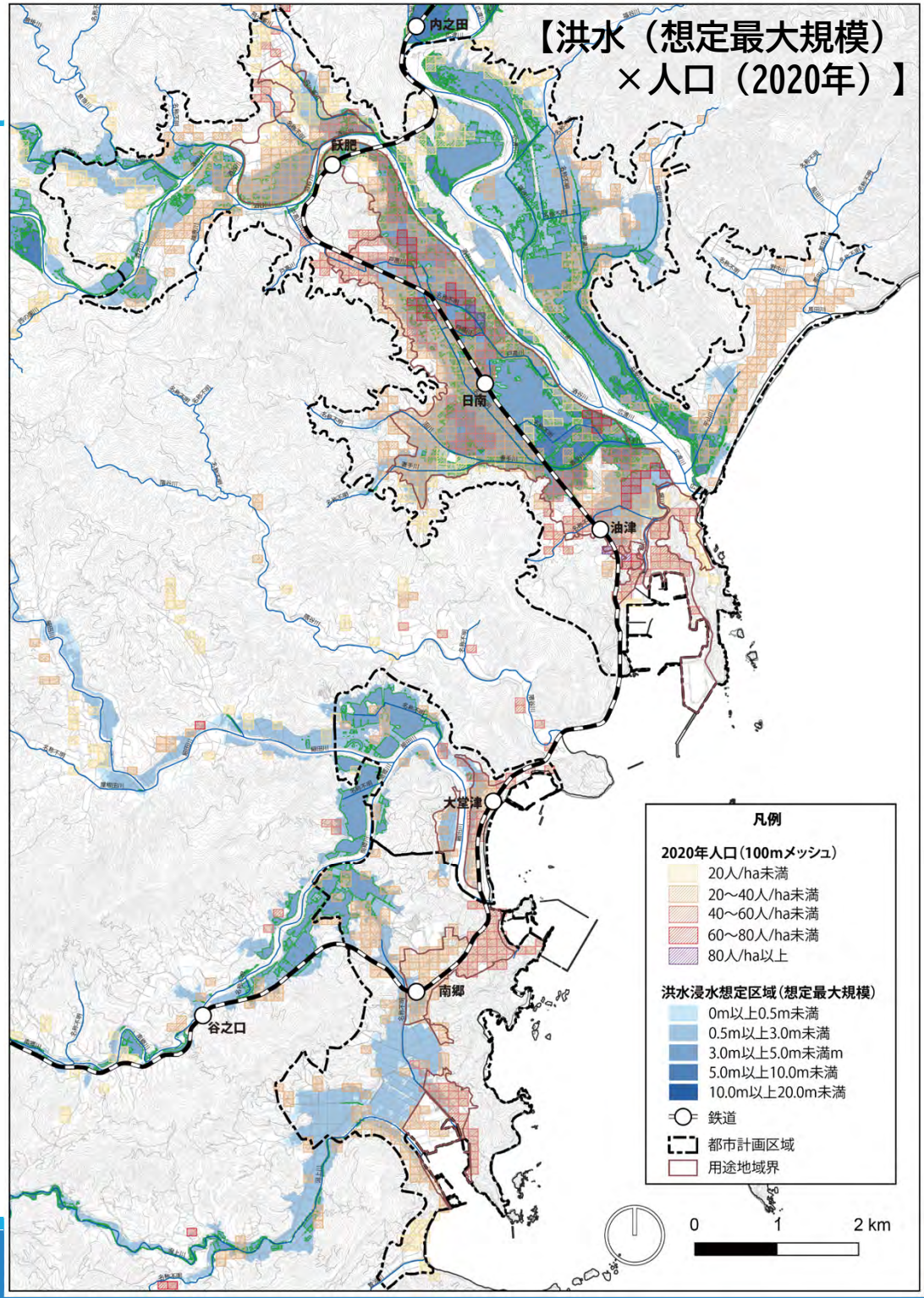
【浸水想定区域内人口・割合】

		2020年		2045年	
		3m未満	3m以上	3m未満	3m以上
用途地域内	人口	7,962	10,483	5,667	7,592
	割合	15.7%	20.6%	17.4%	23.3%
用途地域外	人口	3,461	1,165	2,196	718
	割合	6.8%	2.3%	6.7%	2.2%
都市計画区域計	人口	11,423	11,649	7,863	8,310
	割合	22.5%	22.9%	24.2%	25.5%
日南市	人口	50,848		32,534	
(浸水区域外含む)	割合	100.0%		100.0%	

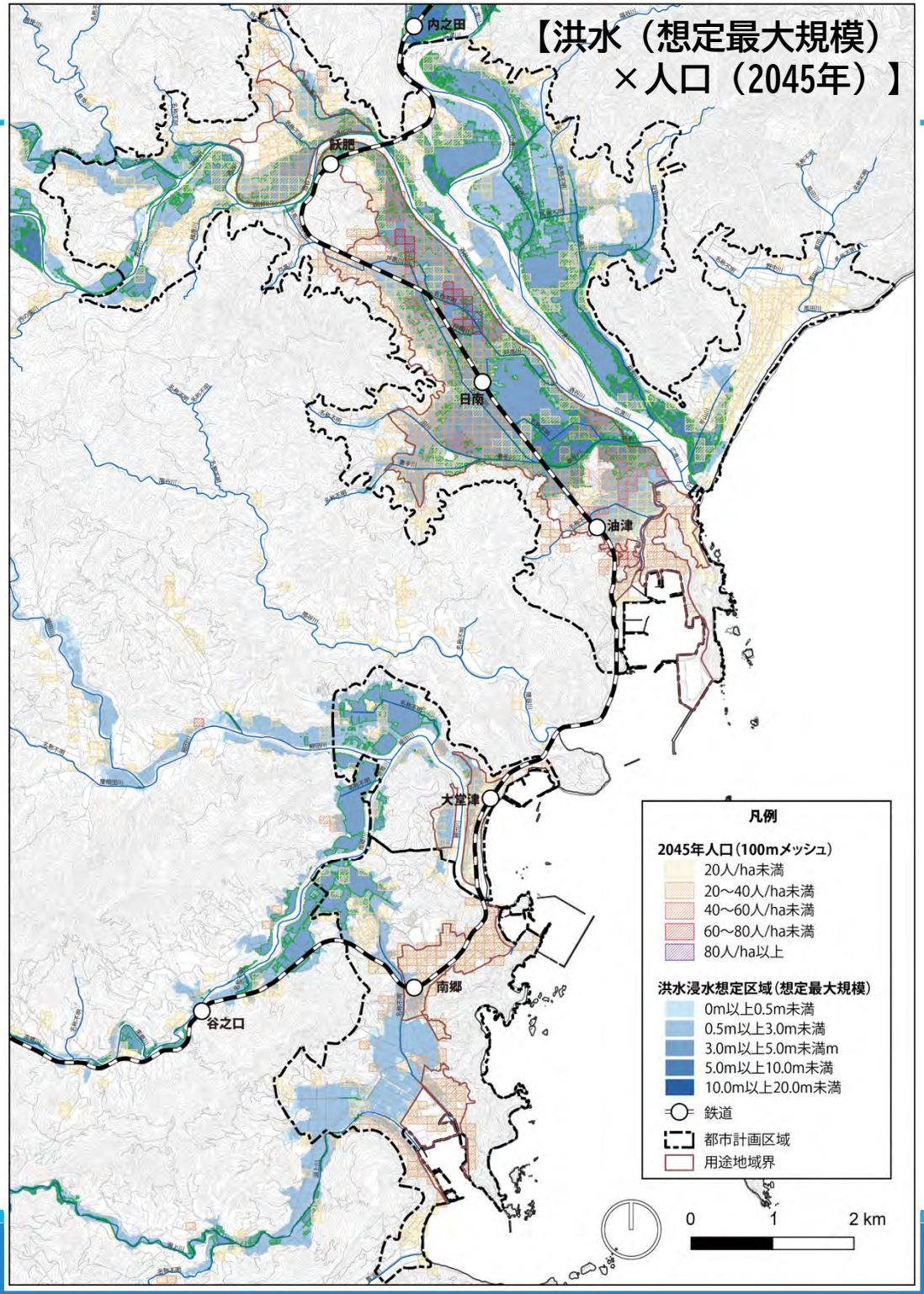
※資料

人口：将来人口・世帯予測ツール（国土交通省国土技術政策総合研究所）

洪水：国土数値情報（国土交通省）



洪水（想定最大規模）



※資料

人口：将来人口・世帯予測ツール（国土交通省国土技術政策総合研究所）

洪水：国土数値情報（国土交通省）

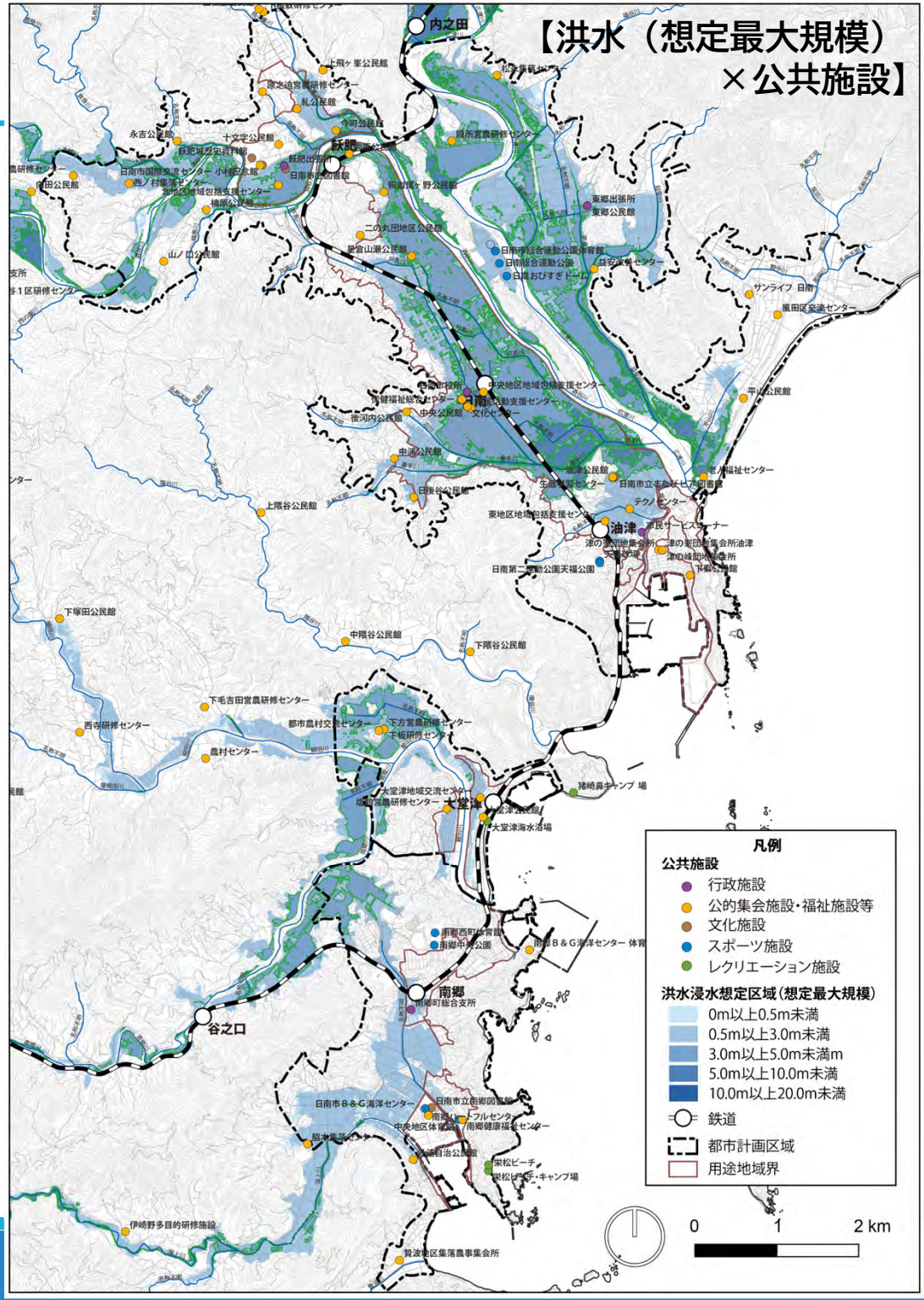
洪水（想定最大規模）

・飫肥地区や日南線と酒谷川間等で浸水深３ｍ以上となっており、市役所や市立図書館などをはじめ、多くの公共施設で浸水被害が懸念。

【浸水想定区域内施設数・割合】

		3m未満	3m以上	浸水想定区域外	計
用途地域内	施設数	15	11	19	45
	割合	33%	24%	42%	100%
用途地域外	施設数	14	-	20	34
	割合	41%	0%	59%	100%
都市計画区域計	施設数	29	11	39	79
	割合	37%	14%	49%	100%

※資料
公共施設、洪水：国土数値情報（国土交通省）



洪水（計画規模）

・用途地域内に浸水深３ｍ以上はほとんどなく、現状、将来ともに高リスク地域の人口はわずかである。

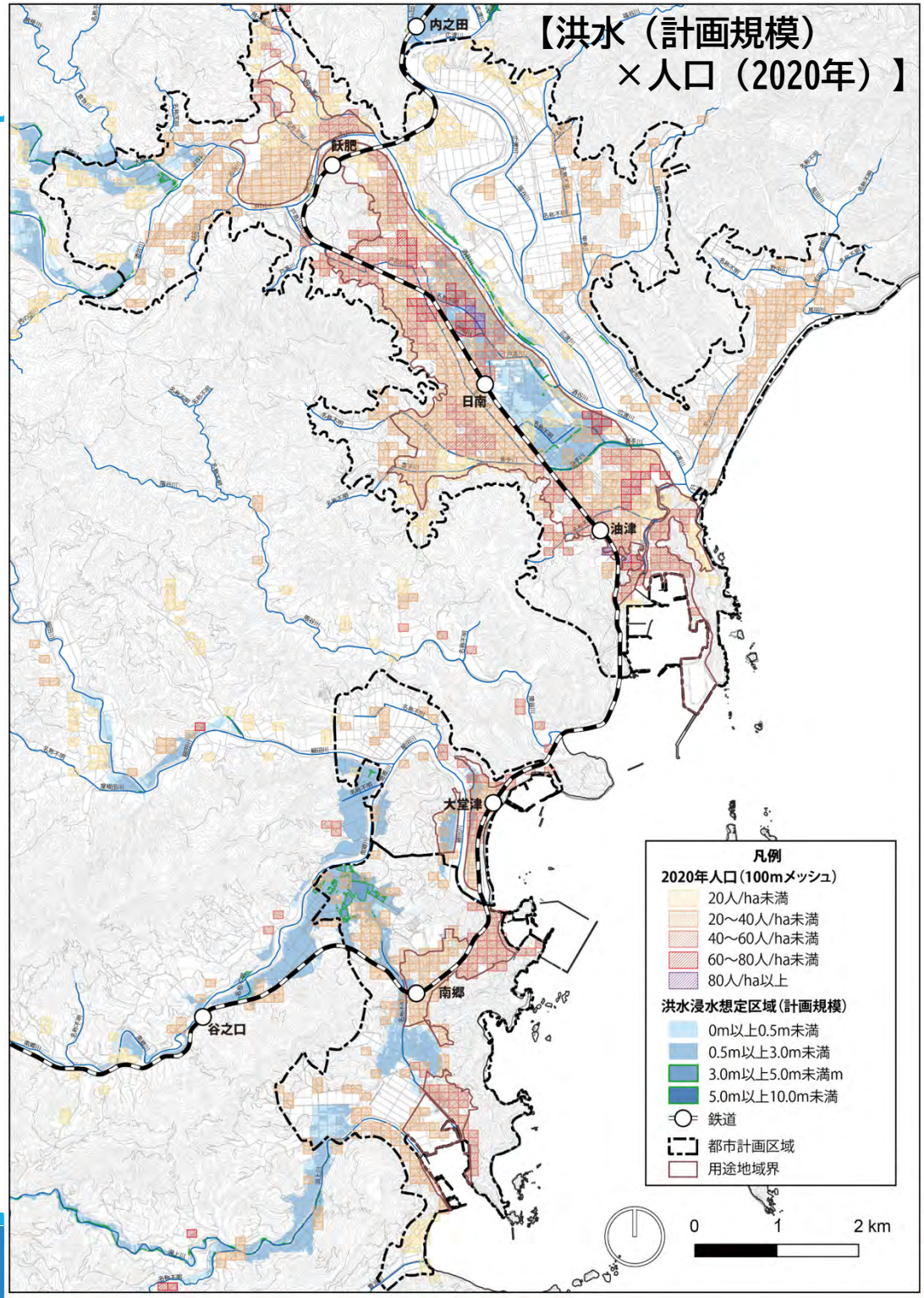
【浸水想定区域内人口・割合】

		2020年		2045年	
		3m未満	3m以上	3m未満	3m以上
用途地域内	人口	3,745	23	2,772	18
	割合	7.4%	0.0%	8.5%	0.1%
用途地域外	人口	699	44	433	26
	割合	1.4%	0.1%	1.3%	0.1%
都市計画区域計	人口	4,444	68	3,205	44
	割合	8.7%	0.1%	9.9%	0.1%
日南市	人口	50,848		32,534	
(浸水区域外含む)	割合	100.0%		100.0%	

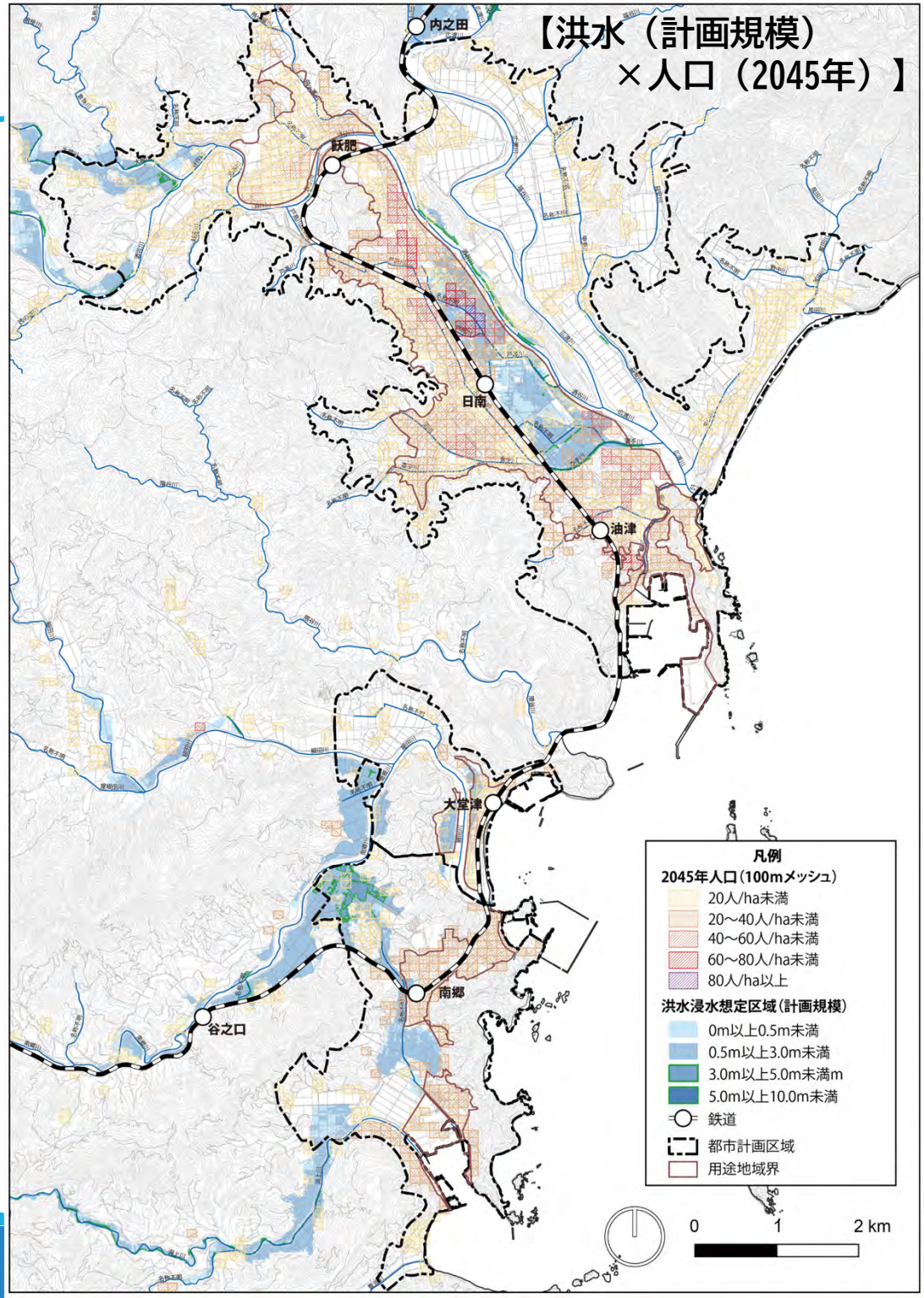
※資料

人口：将来人口・世帯予測ツール（国土交通省国土技術政策総合研究所）

洪水：国土数値情報（国土交通省）



洪水（計画規模）



※資料

人口：将来人口・世帯予測ツール（国土交通省国土技術政策総合研究所）

洪水：国土数値情報（国土交通省）

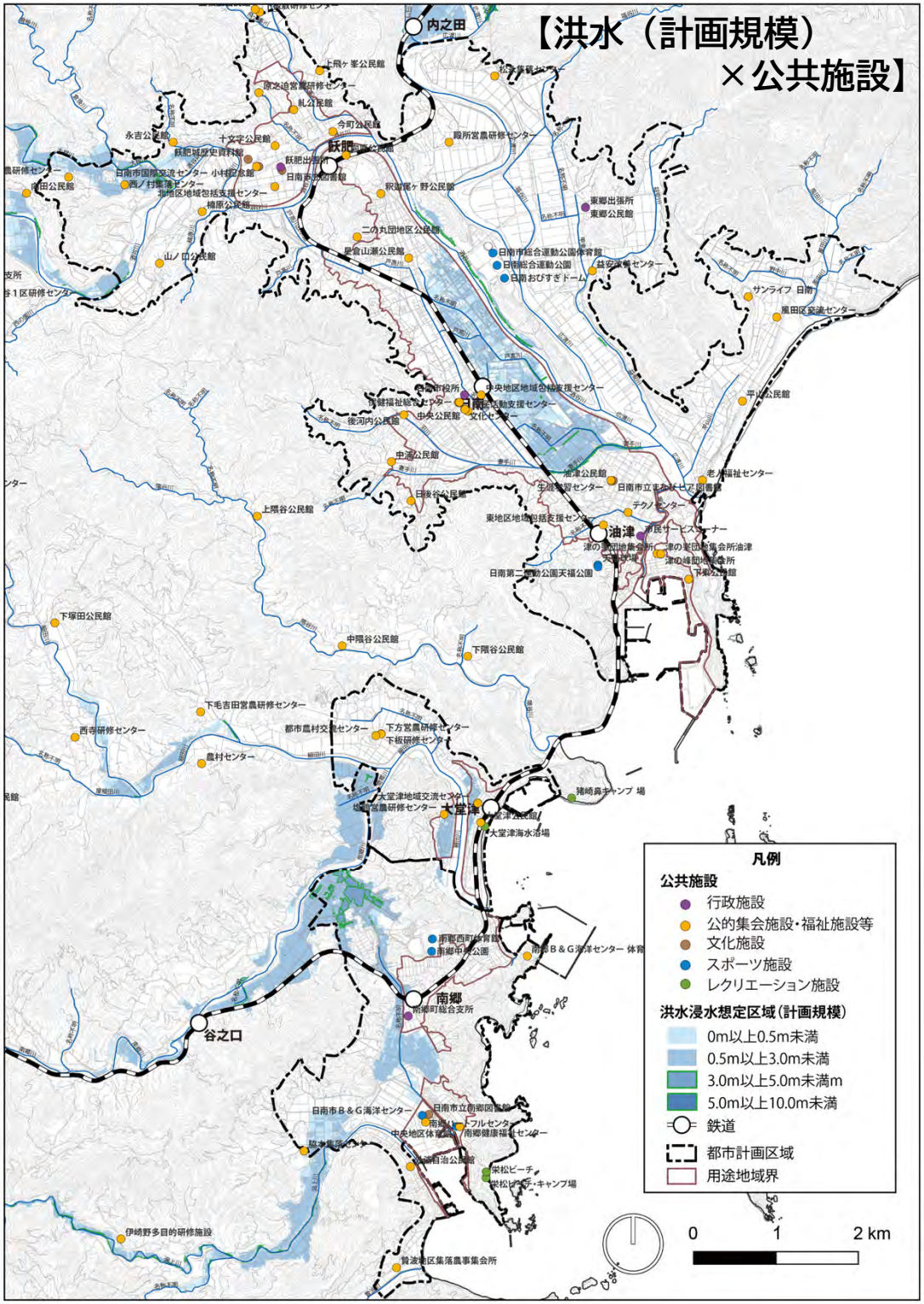
洪水（計画規模）

・浸水が想定されている地域に立地する公共施設は、わずかである。

【浸水想定区域内施設数・割合】

		3m未満	3m以上	浸水想定区域外	計
用途地域内	施設数	-	-	45	45
	割合	0%	0%	100%	100%
用途地域外	施設数	1	-	33	34
	割合	3%	0%	97%	100%
都市計画区域計	施設数	1	-	78	79
	割合	1%	0%	99%	100%

※資料
公共施設、洪水：国土数値情報（国土交通省）



津波

- 用途地域では油津、大堂津、南郷、外浦港周辺の用途地域で浸水深2m以上の地域が広がっており、対象人口は現状で約3,700人。
- 将来は人口減少の大きい地域でもあることから、現状の1/4程度の約900人まで減少。

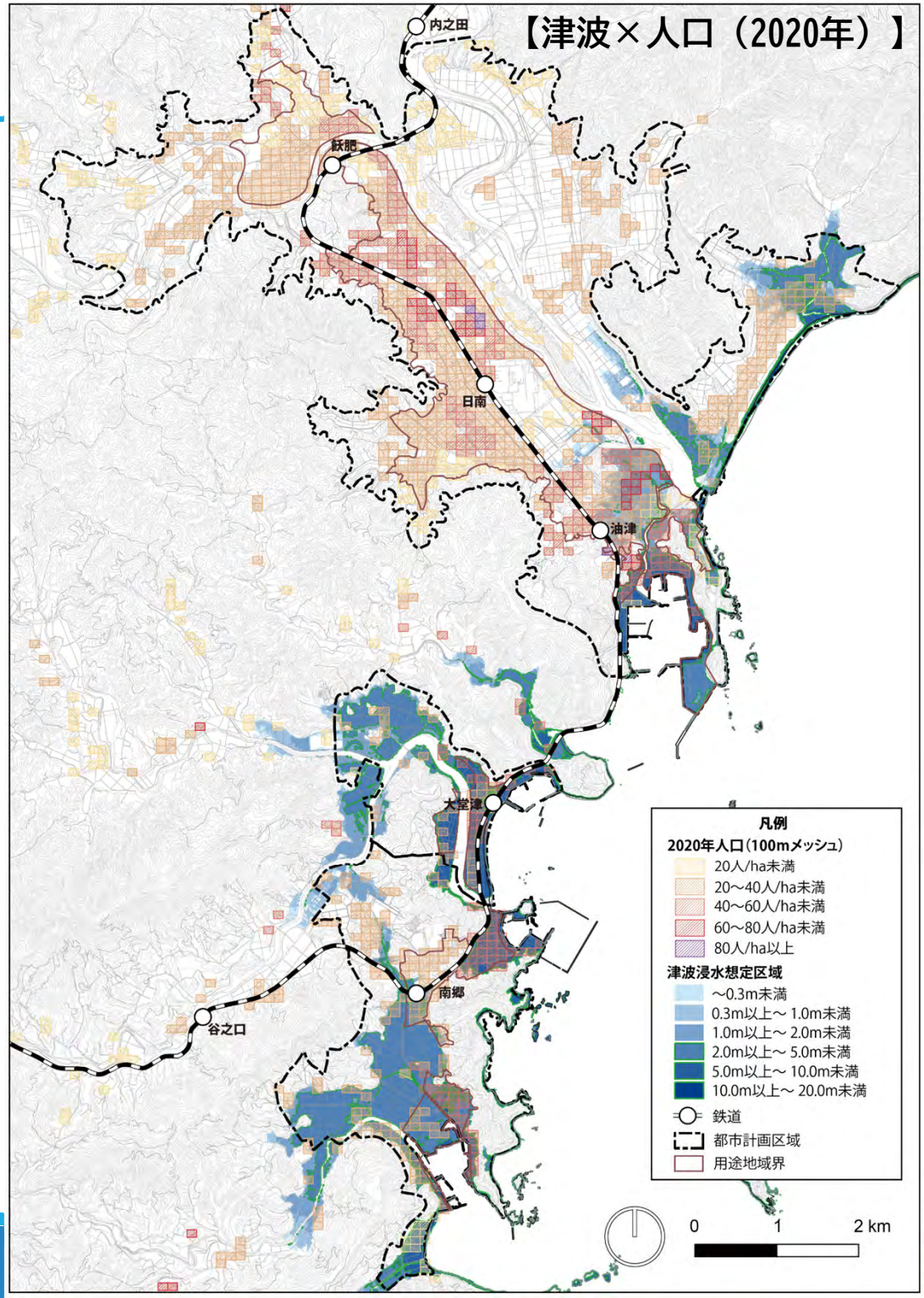
【浸水想定区域内人口・割合】

		2020年		2045年	
		2m未満	2m以上	2m未満	2m以上
用途地域内	人口	3,025	3,690	2,014	926
	割合	5.9%	7.3%	6.2%	2.8%
用途地域外	人口	1,147	2,530	679	1,485
	割合	2.3%	5.0%	2.1%	4.6%
都市計画区域計	人口	4,171	6,220	2,693	2,410
	割合	8.2%	12.2%	8.3%	7.4%
日南市(浸水区域外含む)	人口	50,848		32,534	
	割合	100.0%		100.0%	

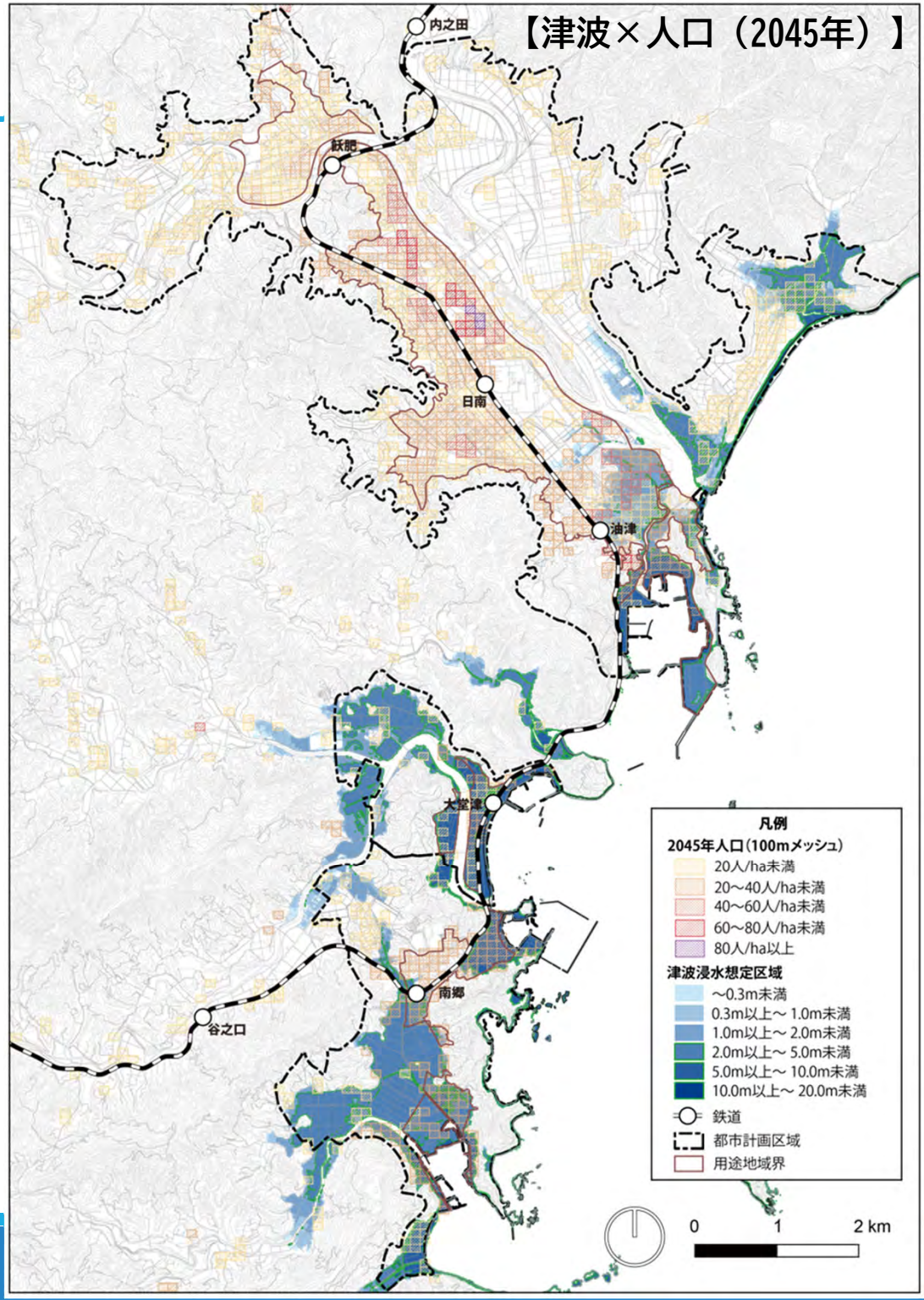
※資料

人口：将来人口・世帯予測ツール（国土交通省国土技術政策総合研究所）

津波：国土数値情報（国土交通省）



津波



※資料

人口：将来人口・世帯予測ツール（国土交通省国土技術政策総合研究所）

津波：国土数値情報（国土交通省）

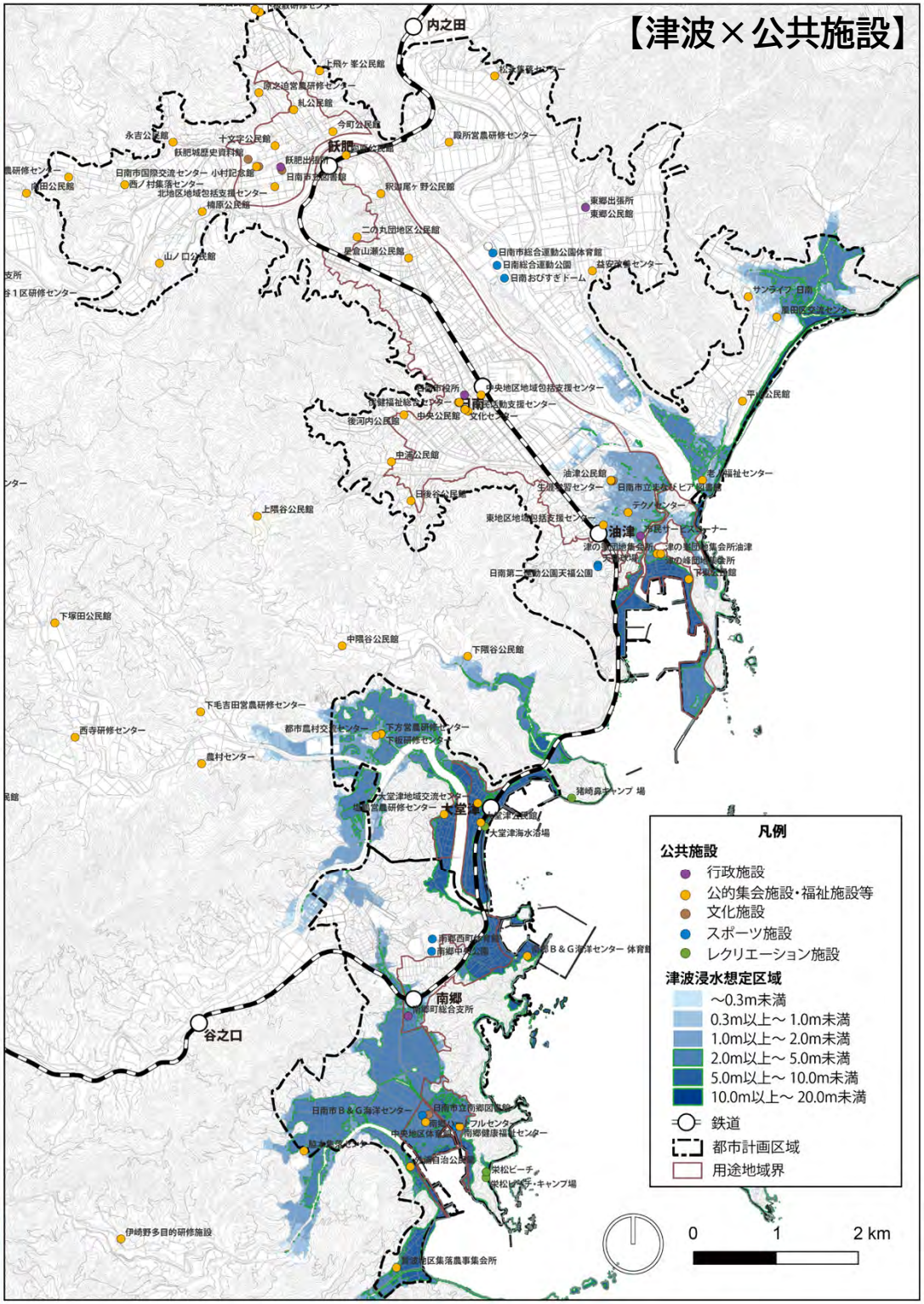
津波

・南郷、外浦港周辺の浸水深2m以上の地域で、市役所支所、図書館などの公共施設で浸水被害が懸念。

【浸水想定区域内施設数・割合】

		2m未満	2m以上	浸水想定区域外	計
用途地域内	施設数	5	14	26	45
	割合	11%	31%	58%	100%
用途地域外	施設数	4	6	24	34
	割合	12%	18%	71%	100%
都市計画区域計	施設数	9	20	50	79
	割合	11%	25%	63%	100%

※資料
公共施設、津波：国土数値情報（国土交通省）



高潮

・用途地域内に浸水深３ｍ以上はほとんどなく、現状、将来ともに高リスク地域の人口はわずかである。

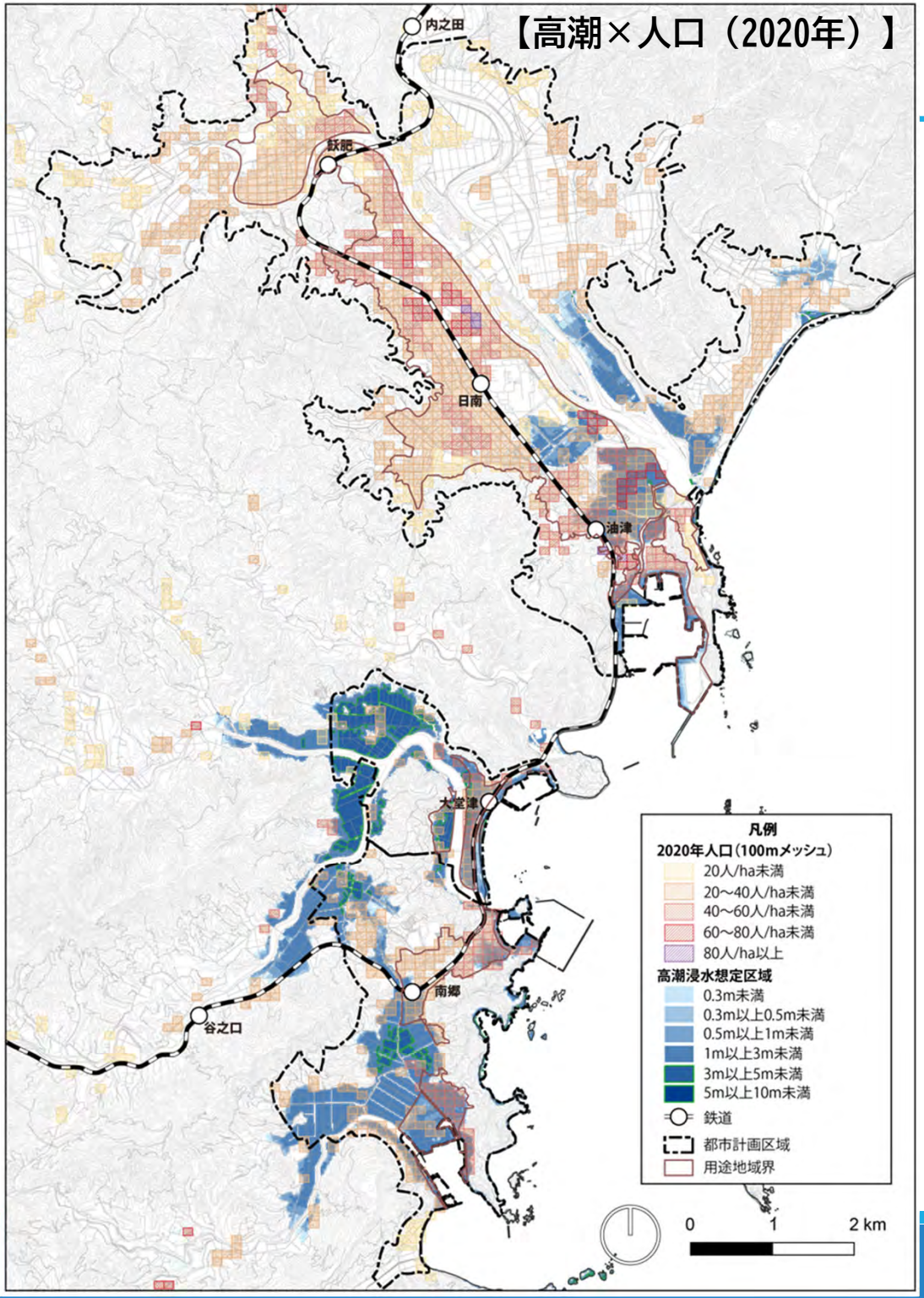
【浸水想定区域内人口・割合】

		2020年		2045年	
		3m未満	3m以上	3m未満	3m以上
用途地域内	人口	6,156	106	1,321	58
	割合	12.1%	0.2%	4.1%	0.2%
用途地域外	人口	2,709	125	571	77
	割合	5.3%	0.2%	1.8%	0.2%
都市計画区域計	人口	8,865	231	1,891	135
	割合	17.4%	0.5%	5.8%	0.4%
日南市	人口	50,848		32,534	
(浸水区域外含む)	割合	100.0%		100.0%	

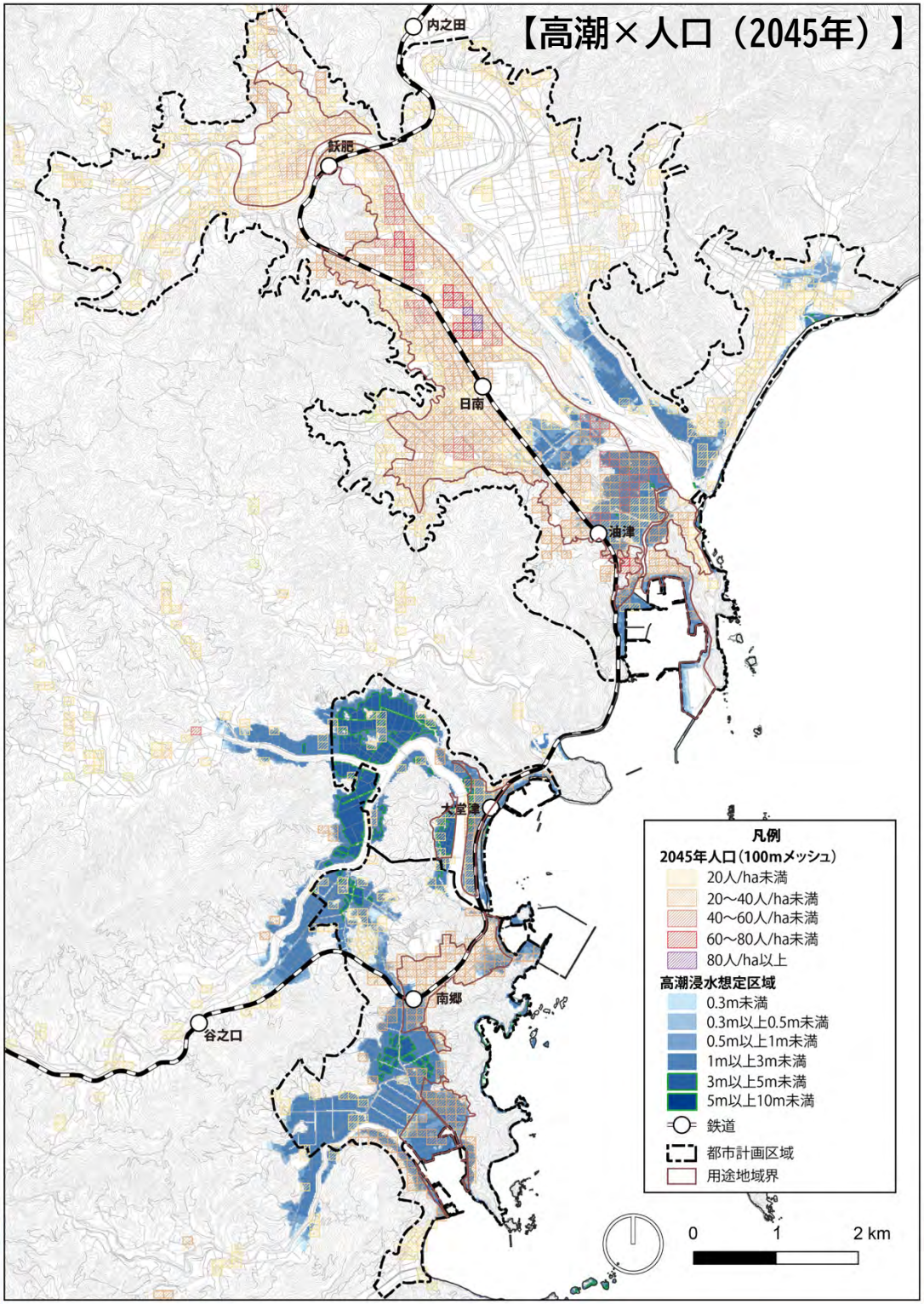
※資料

人口：将来人口・世帯予測ツール（国土交通省国土技術政策総合研究所）

高潮：国土数値情報（国土交通省）



高潮



※資料

人口：将来人口・世帯予測ツール（国土交通省国土技術政策総合研究所）

高潮：国土数値情報（国土交通省）

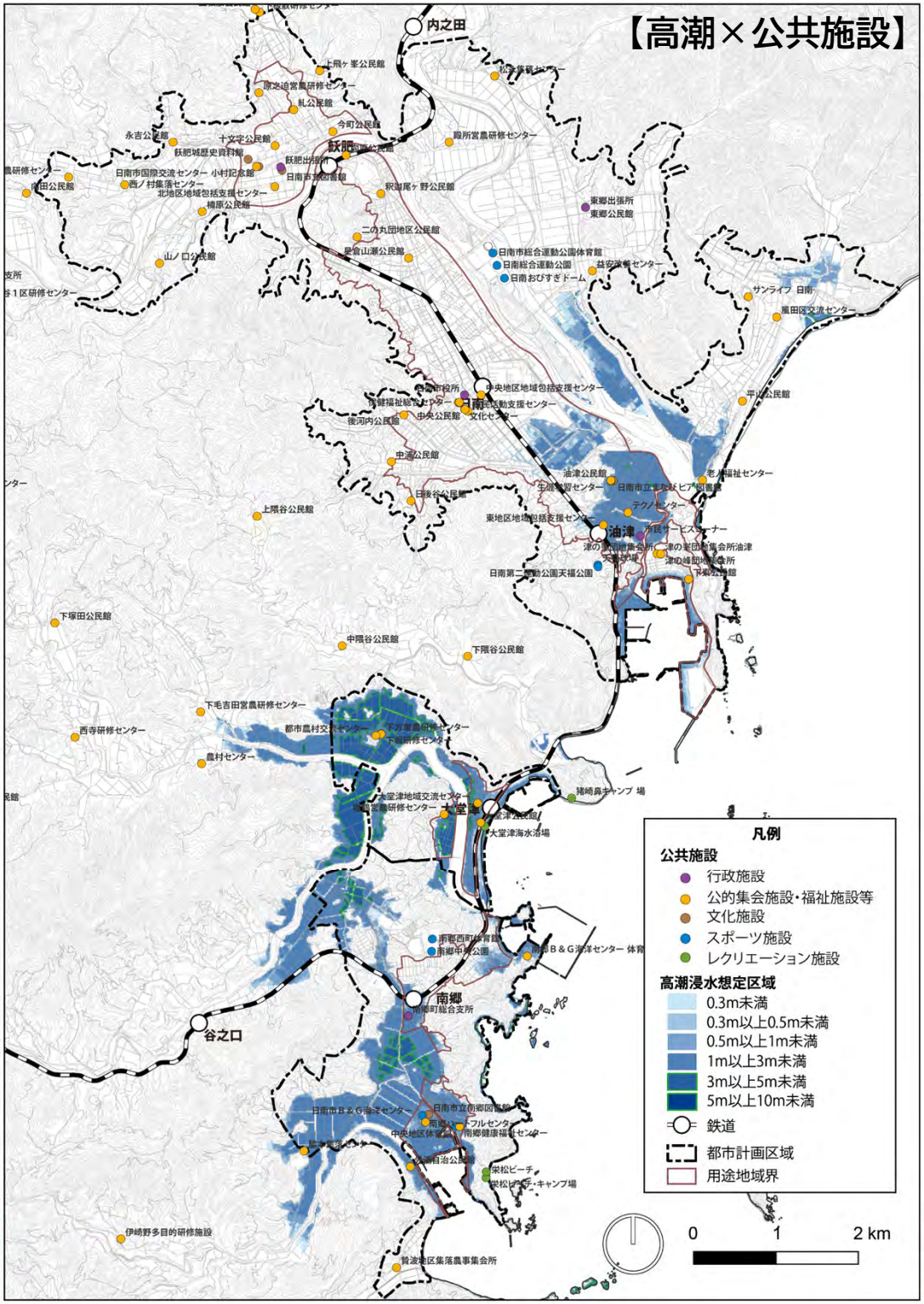
高潮

・用途地域内に浸水深３ｍ以上はほとんどなく、高リスク地域内の公共施設はわずかである。

【浸水想定区域内施設数・割合】

		3m未満	3m以上	浸水想定区域外	計
用途地域内	施設数	18	-	27	45
	割合	40%	0%	60%	100%
用途地域外	施設数	6	-	28	34
	割合	18%	0%	82%	100%
都市計画区域計	施設数	24	-	55	79
	割合	30%	0%	70%	100%

※資料
公共施設、高潮：国土数値情報（国土交通省）



土砂災害

・土砂災害特別警戒区域は用途地域縁辺部に多く、現状、将来ともに高リスク地域の人口はわずかである。

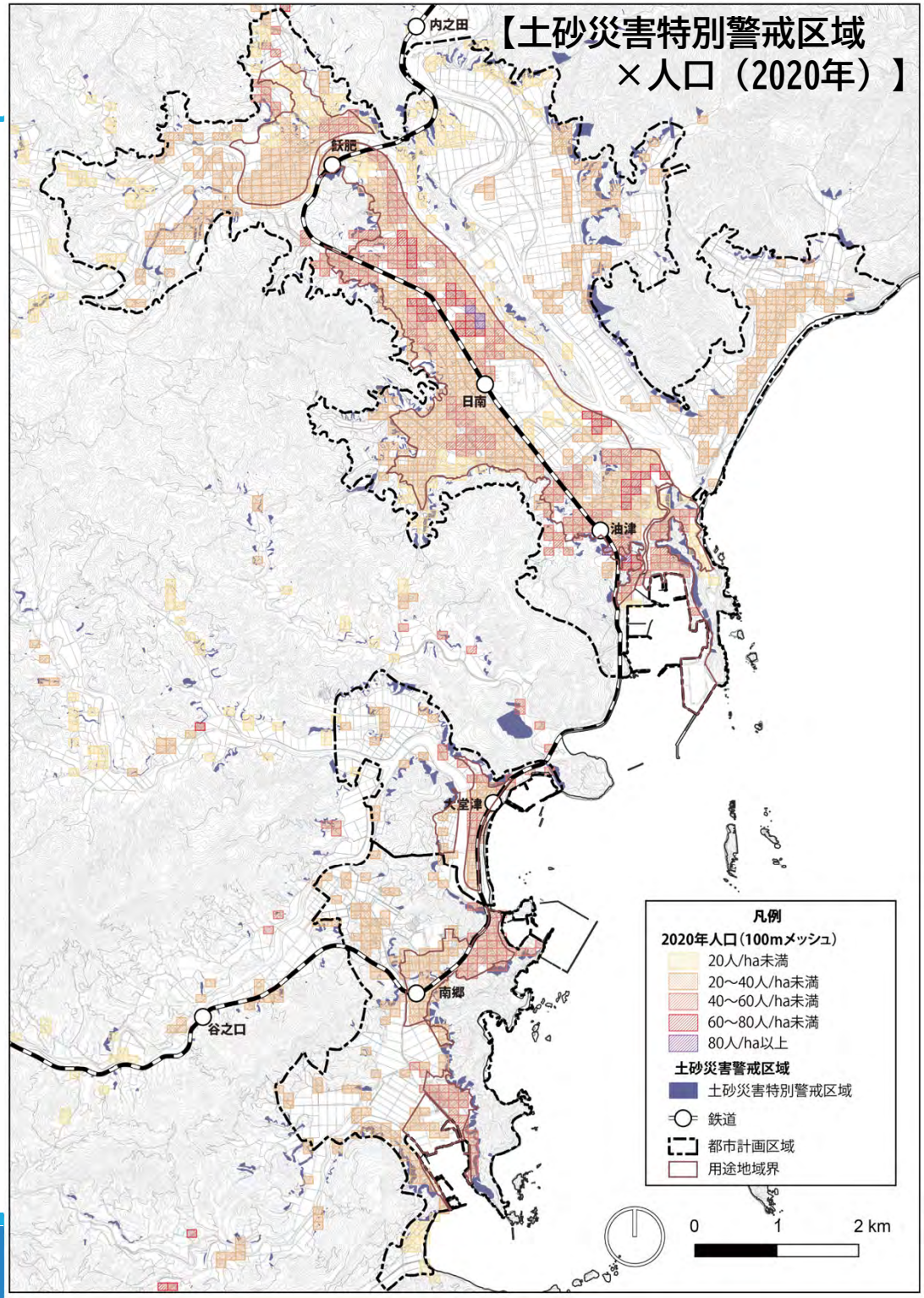
【土砂災害特別警戒区域内人口・割合】

		2020年	2045年
用途地域内	人口	340	220
	割合	0.7%	0.7%
用途地域外	人口	1,247	778
	割合	2.5%	2.4%
都市計画区域計	人口	1,587	998
	割合	3.1%	3.1%
日南市（浸水区域外含む）	人口	50,848	32,534
	割合	100.0%	100.0%

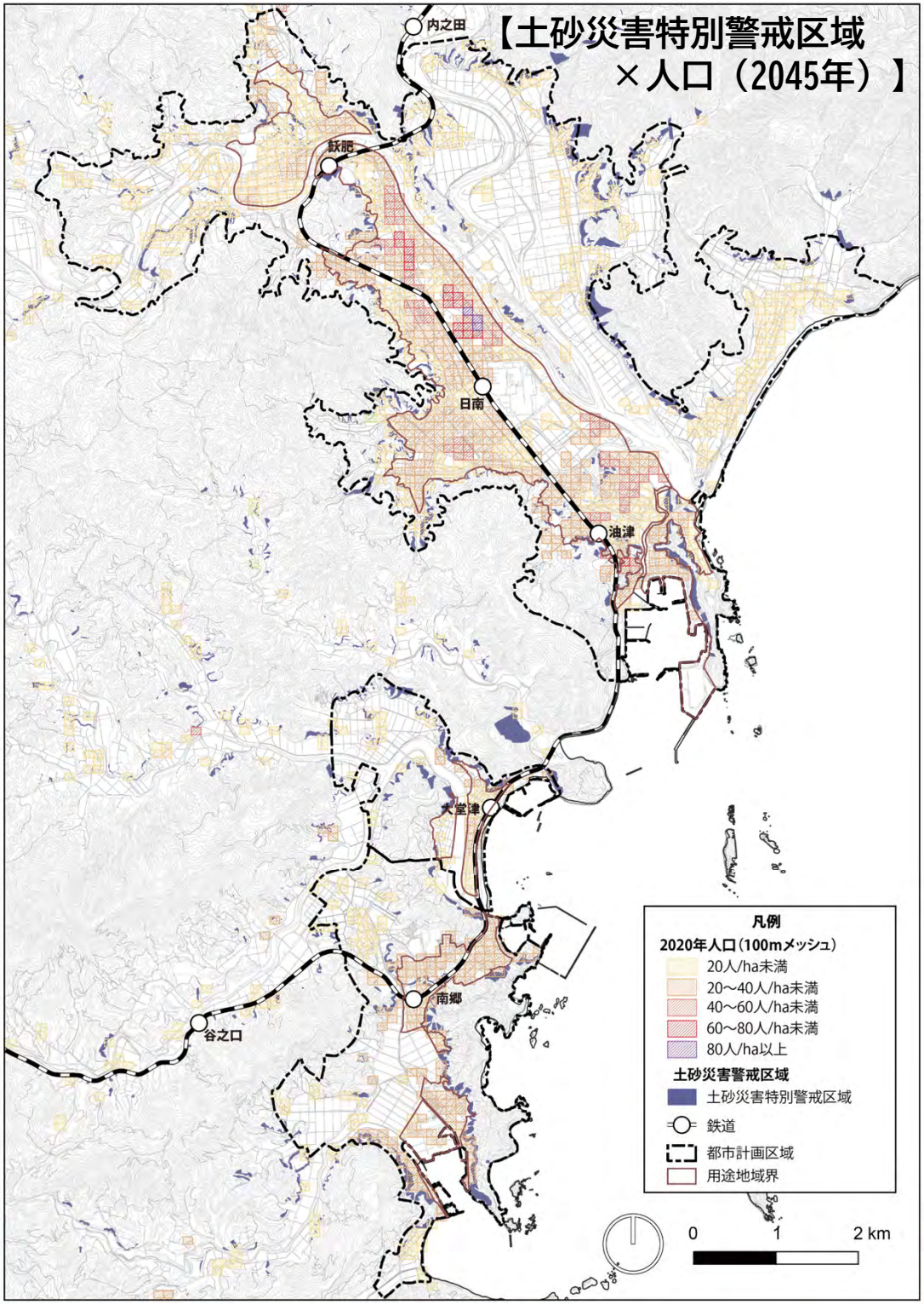
※資料

人口：将来人口・世帯予測ツール（国土交通省国土技術政策総合研究所）

土砂災害：国土数値情報（国土交通省）



土砂災害



※資料

人口：将来人口・世帯予測ツール（国土交通省国土技術政策総合研究所）

土砂災害：国土数値情報（国土交通省）

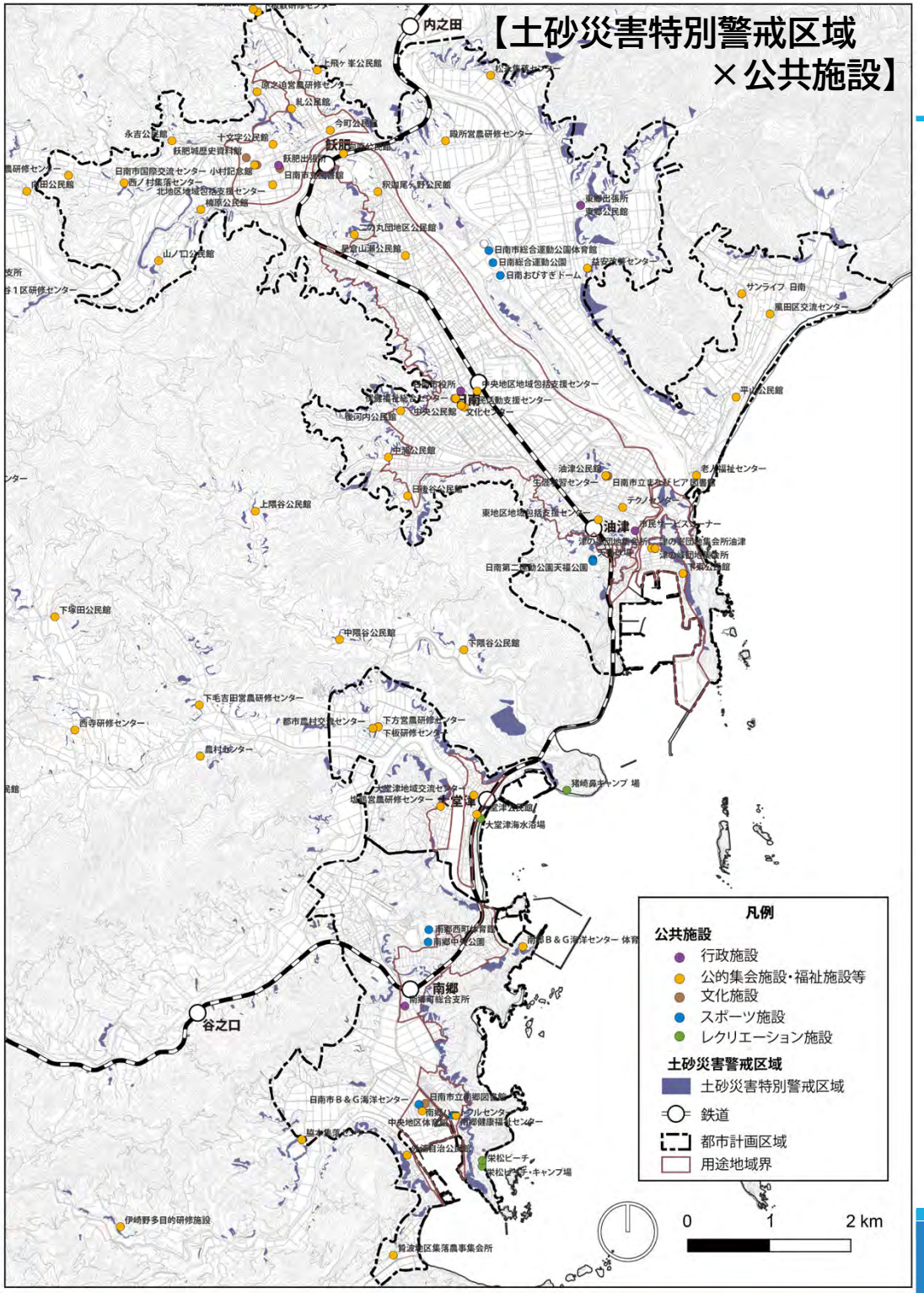
土砂災害

・土砂災害特別警戒区域は用途地域縁辺部に多く、用途地域内で対象となる公共施設はない。

【土砂災害特別警戒区域内施設数・割合】

		土砂災害特別警戒区域	特別警戒区域外	計
用途地域内	施設数	-	45	45
	割合	0%	100%	100%
用途地域外	施設数	1	33	34
	割合	3%	97%	100%
都市計画区域計	施設数	1	78	79
	割合	1%	99%	100%

※資料
公共施設、土砂災害：国土数値情報（国土交通省）



まとめ

（洪水（想定最大規模））
- 飫肥地区や日南線と酒谷川間等で浸水深３m以上となっており、現状、用途地域内で約1万人が居住。将来には減少するものの、市全体に対する割合は増加。
- 市役所や市立図書館などをはじめ、多くの公共施設で浸水被害が懸念。

（洪水（計画規模））
- 用途地域内に浸水深３m以上はほとんどなく、現状、将来ともに高リスク地域の人口はわずか。
- 浸水が想定されている地域に立地する公共施設はわずか。

（津波）
- 用途地域では油津、大堂津、南郷、外浦港周辺の用途地域で浸水深2m以上の地域が広がっており、対象人口は現状で約3,700人。将来は現状の1/4程度の約900人まで減少。
- 南郷、外浦港周辺で、市役所支所、図書館などの公共施設で浸水被害が懸念。

（高潮）
- 用途地域内に浸水深３m以上はほとんどなく、高リスク地域の人口はわずか。
- 高リスク地域内の公共施設はわずか。

（土砂災害）
- 土砂災害特別警戒区域は用途地域縁辺部に多く、現状、将来ともに高リスク地域の人口はわずか。
- 用途地域内で対象となる公共施設はない。

6. 課題整理

都市構造・災害リスク分析まとめ

（人口）
・現状で、用途地域内に人口は集積しているものの、将来は、飫肥駅や油津駅周辺など古くからの市街地での人口減少が顕著。
・都市計画区域外の人口は、鉄道駅や幹線道路沿道に低密度に広がっているが、将来はさらに減少が進む。

（公共交通）
・公共交通の徒歩圏は用途地域のほぼ全域をカバーされている。
・都市計画区域外もコミュニティバスなどの路線が網羅されており、公共交通を利用できる環境は整っている。

（都市機能）
・商業施設、医療施設、子育て支援施設の徒歩圏、高齢者福祉施設の利用圏は、大半の用途地域をカバーしており、都市機能の利用環境は整っている。
・都市計画区域外は北郷などの一部のみで立地。

（類似都市との比較）
・空き家率が高く、また1人当たり税収が低く財政面で厳しい。

（防災）
・洪水は想定最大規模では居住地や公共施設の浸水が懸念されるが、計画規模ではわずか。
・津波は用途地域内でも港や沿岸部で居住地、公共施設の浸水被害が懸念。
・高潮、土砂災害ともにリスクは比較的高くない。

課題整理

（都市構造の特徴）

- 用途地域内に人口、都市機能が集積しており、利便性は高い。
- 公共交通は市全域を網羅しており、都市機能が集積する地域への到達が可能。
- 観光資源が市内に点在しており、来訪者による経済効果などが期待される。

（今後想定されるリスク）

- 人口減少、高齢化の進展により、都市の活力や利便性の低下が懸念される。
- 財政もさらに厳しくなることが予想され、公共サービスの維持や移動手段の確保が懸念される。
- 津波により、港や沿岸部を中心に居住地や公共施設への浸水被害が懸念される。

- 今後とも人口減少・高齢化の進展が予想される中で、都市機能を拠点地域等へ集約させて、効率的な都市構造の構築が必要。
- 市民生活の利便性を確保するため、都市機能の集約する地域への移動手段の維持・確保が必要。
- 観光振興による交流人口の拡大など、地域の活力創出が必要。
- 津波など想定される災害に備え、安全な市街地の形成が必要。

7. まちづくり方針

まちづくり方針

（まちづくりの目標）

市民生活を支え、安心して住み続けられる日南型コンパクトシティの実現

（立地の適正化に関する基本的な方針）

①拠点地域への都市機能の誘導

現状で商業や医療、公共サービスなどが立地する拠点地域に対して、それら都市機能のさらなる誘導を図り、市民の日常生活の利便性の確保を図っていく。

②拠点地域周辺への居住の誘導と既存集落の維持

都市機能が集積し生活利便性を享受できる拠点地域周辺への居住を誘導するとともに、市内に点在する既存集落の維持を図っていく。

③日常生活を支える公共交通網の維持

市民の日常的な移動手段を確保していくため、市内各所と拠点地域間をつなぐ公共交通網を今後とも維持していく。

④安心して住み続けられる市街地の形成

用途地域内でも港や沿岸部で津波浸水等のリスクが存在することから、特に居住誘導区域に指定する区域については、災害リスクの回避、低減策を図り、安心して住み続けられる市街地を形成する。

日南市重点戦略プラン（令和7年）

・コンセプトを「創る。挑む。」とし、まちの将来像を「住みたい　住み続けたいまち」としている。

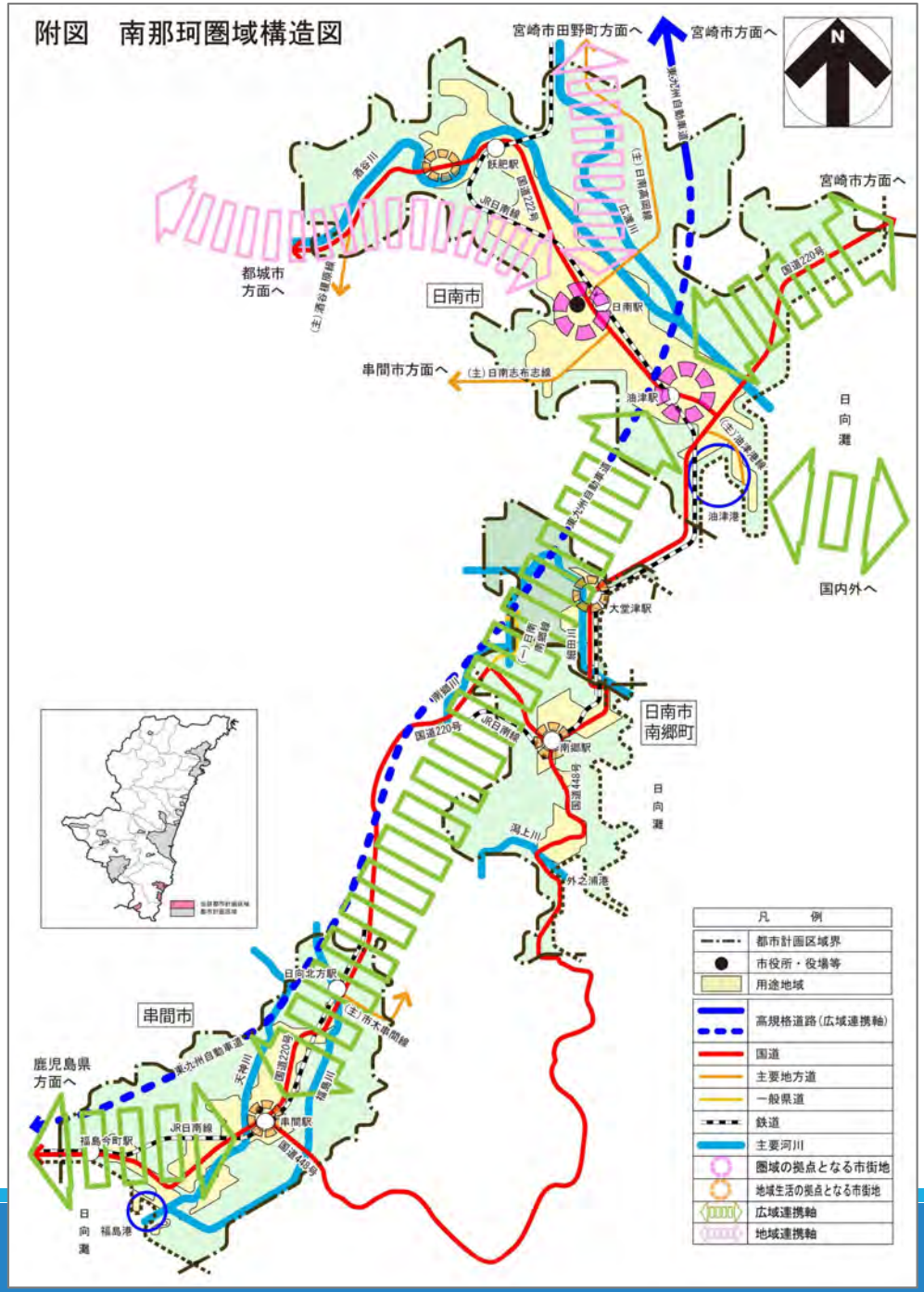
種別	概要
コンセプト	「創る。挑む。」
計画期間	令和７年度から令和11年度
長期ビジョン（将来像）	住みたい　住み続けたいまち 今ある価値を伸ばし、新たな価値を創造し、日南らしさを魅力に、 このまちに住んでみたいずっと居たい また戻ってきたい
４つのビジョン	ビジョン１　誰もがまちづくりに関わり活躍できるまち →次世代の育成、担い手の育成 ビジョン２　安心をみんなでつくっていけるまち →防犯・防災力の強化、健康・福祉・医療の環境の充実、 生活環境の向上、ダイバーシティの風土醸成 ビジョン３　地域の資源をいかし、稼ぐことができるまち →人材の確保、産業基盤の強化、経営の安定化、魅力の向上 ビジョン４　可能性を広げ、未来へつながるまち →人口減少の抑制、デジタル社会の実現、つながりの創出、 ゼロカーボンシティの実現

南那珂圏域　都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（令和4年）

・油津、吾田、飫肥、大堂津、国道220号沿道の各地区が、圏域または地域生活の拠点に位置付けられている。

種別	概要
都市づくりの基本方向	1　観光リゾート地として日南海岸などの地域資源を生かすとともに、圏域内の各都市が連携する連携都市圏の形成 2　自然や田園と共生した、安全で快適な生活を送るための都市の形成 3　日南海岸等の自然・歴史・田園環境の保全と、地域資源を生かした地域活性化・広域観光化による、海・山・里一体の広域交流圏の形成
地域毎の市街地像	・圏域の拠点となる市街地：油津地区、吾田地区 ・地域生活の拠点となる市街地：飫肥地区、大堂津地区、目井津港から旧総合支所周辺に至る国道２２０号沿道地区 ・工業拠点：平野地区（既存工業地）、日高嶋工業団地、吉野方工業団地、外浦港周辺 ・流通業務拠点：油津港周辺 ・観光拠点：堀川運河、飫肥城下町、鵜戸神宮、酒谷棚田 ・観光受入拠点：油津港、飫肥駅、道の駅酒谷、道の駅南郷、港の駅めいつ ・ＩＣＴ等産業拠点：油津地区、飫肥地区、吾田地区

南那珂圏域　都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（令和4年）



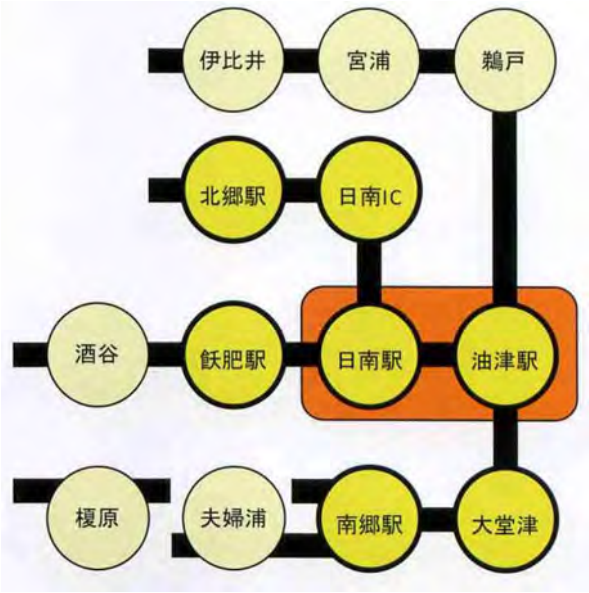
日南市都市計画マスタープラン（平成26年3月）

・日南型コンパクトシティとして、拠点分散・ネットワーク型構造を将来都市構造としている。

種別	概要
目標	・緑と黒潮に育まれた、南那珂圏域をリードする元気な人や産業がある“まち”にします ・投資効果の経営的視点をもって、「日南型コンパクトシティ」を創ります ・そのために、「どこをどんな場所にするか」の基本方針を定めます
将来像	“笑顔はじける　まち　日南” ～市民自らが日南を支えていると実感し、人が集い、誰もが笑顔で暮らせるまち～ “魅力あるまち”“元気なまち”“安心・安全なまち”“支え合うまち”
土地利用の基本方針	・生活活力ゾーン：地域生活拠点や商業系・工業系の土地利用が多い地域を網羅する範囲。 ・癒し産業ゾーン：豊かな自然環境を保全するだけでなく、第一次産業を「癒し産業」として活用する範囲。 ・生産供給ゾーン：農地や豊かな山林、営漁環境が広がり、安心・安全な食料を生産する範囲。 ・観光振興重点推進スポット：本市への観光客の維持・拡大を図るため、市内に多数存在する観光資源を周遊拠点とします。 ・各種開発優先検討エリア：東九州自動車道のインターチェンジが予定されているエリアは、開発や土地利用を検討します。

日南市都市計画マスタープラン（平成26年3月）

【拠点分散・ネットワーク型の構造概念図】



◆地域生活拠点◆

身近な生活圏で、生活関連施設として買物、教育、医療・福祉、文化・集い、交通拠点などの各都市機能が複数整った拠点。

◆集落生活拠点◆

地域生活拠点から離れた位置で、比較的多くの住民が暮らす集落を対象に、日常生活の機能の維持を優先した地域コミュニティの拠点。

◆コアゾーン◆

地域生活拠点のうち、市民のための生活利便性が最も高く、多様な都市活動が展開され、さまざまな交流の展開が可能な都市の中枢機能を集積させるゾーン。

【土地利用の基本方針図】